

フランシス・アリス

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://francisalys.com>

Instagram: [@francis_alys_official](https://www.instagram.com/francis_alys_official)

1959 年、ベルギーのアントワープに生まれる。ヴェネチアで建築を学んだのち、1986 年、NGO の建築家としてメキシコに派遣され、以降同地に暮らす。1989 年頃よりアーティストとして制作を始め、揺れ動くラテンアメリカの政治、社会、経済をテーマに、ビデオ、パフォーマンス、写真、絵画など、様々な形態で作品を発表。2022 年にはヴェネチア・ビエンナーレのベルギー代表作家に選出された。グッゲンハイム美術館、ニューヨーク近代美術館、ロサンゼルス現代美術館、フランクフルト近代美術館、テート・ギャラリー、ポンピドゥー・センターなど、欧米の主要な美術館に作品が収蔵されている。

略歴

1959 ベルギー、アントワープ生まれ

1978-83 Institut d'Architecture de Tournai (トゥルネー、ベルギー) にて学ぶ

1983-86 Instituto Universitario di Architettura di Venezia (ヴェネチア、イタリア) にて建築を学ぶ

主な個展

2003 「預言者と蠅」ローマ現代美術センター (ローマ、イタリア)

*クンストハウス・チューリヒ (チューリヒ、スイス)、

国立ソフィア王妃芸術センター (マドリード、スペイン) に巡回

2006 「サイン・ペインティング・プロジェクト (1993-1997)」

シャウラガー・ローレンツ財団美術館 (バーゼル、スイス)

「ブラック・ボックス」ハーシュホーン美術館 (ワシントン、アメリカ)

2007 「Politics of Rehearsal」ハマー美術館 (ロサンゼルス、アメリカ)

2010 「A Story of Deception」テート・モダン (ロンドン、英国)

*ウィールズ現代美術センター (ベルギー、ブリュッセル)、

ニューヨーク近代美術館 (ニューヨーク、アメリカ) に巡回

2013 「フランシス・アリス展」東京都現代美術館 (東京)

2015 「A Story of Negotiation」

Museo Tamayo Arte Contemporaneo (メキシコシティ、メキシコ) ほか巡回

主なグループ展

1998 第 24 回サンパウロ・ビエンナーレ (サンパウロ、ブラジル)

1999 第 48 回ヴェネチア・ビエンナーレ (ヴェネチア、イタリア)

2001 第 7 回イスタンブール・ビエンナーレ (イスタンブール、トルコ)

- 「エゴフーガル：イスタンブールビエンナーレ東京」東京オペラシティアートギャラリー（東京）
第49回ヴェネチア・ビエンナーレ（ヴェネチア、イタリア）
- 2006 「舞い降りた桜 ザハ・ハディドとめぐるドイツ銀行コレクション」原美術館（東京）
- 2009 「インシデンタル・アフエアーズ うつろいゆく日常性の美学」
サントリーミュージアム天保山（大阪）
「ビデオを待ちながら－映像、60年代から今日へ」東京国立近代美術館（東京）
「コレクション展 shift－揺らぎの場」金沢21世紀美術館（石川）
「サイレント」広島市現代美術館（広島）
- 2012 ドクメンタ13（カッセル、ドイツ）
- 2013 シャルジャ・ビエンナーレ11（シャルジャ、アラブ首長国連邦）
- 2022 第59回ヴェネチア・ビエンナーレ（ヴェネチア、イタリア）

主な受賞歴

- 2004 the Blueorange Art Prize（ドイツ）
- 2008 the Vincent Award（オランダ）
- 2018 the EYE Art & Film Prize（オランダ）
- 2020 Whitechapel Gallery Art Icon Award（英国）

以上

上田 勇児

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://gallery-kaikaikiki.com/category/artists/yuji-ueda/>

Instagram: [@yuji_ueda](https://www.instagram.com/yuji_ueda)

1975年、滋賀県に生まれる。「日本六古窯」の一つに数えられる信楽のお茶農家で育ち、陶芸家・神山易久に師事した後、地元で自らの窯を開く。釉薬の原料である長石を塊のまま使用したり、粘土を表面に被せ窰窯（あながま）で焼成したりするなど、独自の手法を用いた作陶が現代美術家・村上隆の眼にとまり、同氏が運営するギャラリーで個展を開催。国内外から注目を集めることとなる。2019年からは絵画制作も行う。

略歴

1975 滋賀県生まれ
陶芸家・神山易久に師事した後、地元で自らの窯を開く

主な個展・二人展

2008 ギャラリー唐橋（滋賀）
2009 cafe わかや（三重）
2012 「上田勇児 すなば展」 Sundries（東京）
2013 「上田勇児 みずたまりの土展」 Oz Zingaro（東京）
「上田勇児陶展 信楽の土と火と時と」 gallery 福果（東京）
2014 「Cosmic Eruptions／宇宙噴火 上田勇児展」 pragmata（東京）
「上田勇児陶展」 t.gallery（東京）
2015 「GROWING FROM THE ROOTS 展」 TORASARU（滋賀）
「上田勇児展 -平間磨理夫 添え花-」 Sundries（東京）
2018 「ひびき合う土の記憶」 Kaikai Kiki Gallery（東京）
2020 「種を拾う」 Kaikai Kiki Gallery（東京）
2023 Blum & Poe Tokyo（東京）

以上

トレイシー・エミン

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.whitecube.com/artists/tracey-emin>

Facebook: [EminInternational](#)

Instagram: [@traceyeminstudio](#)

Twitter: [@TraceyEmin](#)

1963年ロンドン生まれ。メイドストーン・カレッジ・オブ・アートで学位（BA）を取得後、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートの修士（MA）卒業。1999年、自身のベッドを使用したインスタレーション「My Bed」がターナー賞候補となり、テート美術館で展示される。セーラ・ルーカスやデミアン・ハーストなどのヤング・ブリティッシュ・アーティスト（YBA）の1人として注目を集める。1993年、最初の個展をホワイトキューブで開催。その後、世界各地で展覧会を開催。2011年、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツでドローイングの教授を務める。2013年には、エリザベス女王より、ビジュアルアートへの貢献が認められ、大英帝国勲章司令官（CBE）を授与された。自身の日常的な経験を作品にすることでも知られ、写真制作の際にはスマートフォンを用いることもある。

略歴

1963 ロンドン生まれ

主な個展

- 1993 「My Major Retrospective」 Jay Jopling/White Cube（ロンドン、英国）
- 1995 「Tracey Emin Museum」 221 Waterloo Road（ロンドン、英国）
- 1996 「It's not me that's crying, it's my soul」
Galerie Mot & Van den Boogaard（ブリュッセル、ベルギー）
- 1997 「Solo Exhibition」 Moo Gallery（ヘルシンキ、フィンランド）
- 1999 「Tracey Emin Every Part of Me's Bleeding」 Lehmann Maupin（ニューヨーク、アメリカ）
- 2000 「Love is a Strange Thing」 Fig.-1（ロンドン、英国）
- 2001 「You forgot to kiss my soul」 White Cube（ロンドン、英国）
- 2002 「This is Another Place」 Modern Art Oxford（オックスフォード、英国）
- 2003 「Menphis」 Counter Gallery（ロンドン、英国）
- 2005 「When I Think About Sex…」 White Cube（ロンドン、英国）
「I Can Feel Your Smile」 Lehmann Maupin（ニューヨーク、アメリカ）
- 2008 「Tracey Emin 20 Years」 Centro de Arte Contemporáneo（マラガ、スペイン）、
「Tracey Emin: 20 Years」 Scottish National Gallery of Modern Art（エディンバラ、英国）
- 2009 「Tracey Emin 20 Years」 Kunstmuseum Bern（ベルン、スイス）

- 「Only God Knows I'm Good」 Lehmann Maupin (ニューヨーク、アメリカ)
 「Tracey Emin: Those Who Suffer Love」 White Cube (ロンドン、英国)
 2011 「Love is What You Want」 Hayward Gallery (ロンドン、英国)
 2012 「How It feels」 MALBA (ブエノスアイレス、アルゼンチン)
 2013 「Angel Without You」 Museum of Contemporary Art (マイアミ、アメリカ)
 2015 「Tracey Emin | Egon Schiele, Where I want to go」 Leopold Museum (ウィーン、オーストリア)
 「BP Spotlight: Tracey Emin and Francis Bacon」 Tate Britain (ロンドン、英国)
 2016 「Tracey Emin and William Blake in Focus」 Tate Liverpool (リバプール、英国)
 「Stone Love」 Lehmann Maupin (ニューヨーク、アメリカ)
 2017 「Surrounded by You」 Château La Coste (ル・ピュイ＝サント＝レパラード、フランス)
 2019 「The Fear of Loving. Orsay through the eyes of Tracey Emin」 Musee d'Orsay (パリ、フランス)
 2021 「Tracey Emin / Edward Munch, The Loneliness of the Soul」 Munchmuseet (オスロ、ノルウェー)
 2022 「I Lay Here For You」 Jupiter Artland (エディンバラ、英国)
 2023 「You Should Have Saved Me」 Galleria Lorcan O'Neill (ローマ、イタリア)

主なグループ展

- 2001 「For the Love of Dog」 Pump House Gallery (ロンドン、英国)
 「Televisions」 クンストハレ・ウィーン (ウィーン、オーストリア)
 「At Sea」 テート・リバプール (リバプール、英国)
 2002 「Face Off」 Kettle's Yard (ケンブリッジ、英国)
 2003 「Il racconto del filo」 Museo di Arte Moderna (トリノ、イタリア)
 2004 「The Christmas Exhibition 2004」 Edinburgh Printmakers (エディンバラ、英国)
 2007 「Lights, Camera Action: Artists' Films for the Cinema」
 Whitney Museum of American Art (ニューヨーク、アメリカ)
 2008 「Drawn from the Collection: 400 Years of British Drawing」 Tate Britain (ロンドン、英国)
 「Fourth Plinth」 National Gallery (ロンドン、英国)
 2009 「Pop Life」 Tate Modern (ロンドン、英国)
 「The Kaleidoscopic Eye. Thyssen-Bornemisza Art Contemporary Collection」
 Mori Art Museum (東京)
 2010 「Move: Choreographing You」 Hayward Gallery (ロンドン、英国)
 2013 「All You Need is Love: From Chagall to Kusama and Hatsune Miku」 Mori Art Museum (東京)
 「Looking at the View」 Tate Britain (ロンドン、英国)
 2016 「She: International Women Artists Exhibition」 Long Museum (上海、中国)
 2019 「Frieze Sculpture Park」 (ロンドン、英国)
 2020 「Sin」 The National Gallery (ロンドン、英国)

大久保 紗也

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://sayaokubo.com>

Instagram: [@sayaokubo](https://www.instagram.com/sayaokubo)

1992 年、福岡県に生まれる。京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）大学院修了の年、「第 4 回 CAF 賞」において白石正美賞を受賞し注目を集める。輪郭線として表現される記号的なイメージと、物質感を伴う抽象的な像のうねりという、二つの分離した要素を共存させた絵画を制作。絵画のモチーフとなる人体のフォームは日々描いているドローイングをもとにしており、近年は立体作品にも取り組んでいる。現在、京都を拠点に活動。

略歴

- 1992 福岡県生まれ
- 2017 京都造形芸術大学大学院芸術専攻ペインティング領域修了

主な個展

- 2018 「a doubtful reply」 WAITINGROOM（東京）
- 2020 「They」 WAITINGROOM（東京）
- 2022 「We are defenseless. / We are aggressive.（無防備なわたしたち/攻撃的なわたしたち）」
三越コンテンポラリーギャラリー（東京）
「The mirror crack'd from side to side」 六本木ヒルズ A/D ギャラリー（東京）
「Box of moonlight」 WAITINGROOM（東京）

主なグループ展

- 2017 「NEWSPACE」 WAITINGROOM（東京）
- 2019 「大鬼の住む島」 WAITINGROOM（東京）
- 2020 「10TH」 WAITINGROOM（東京）
- 2022 「SPRING SHOW」 WAITINGROOM（東京）

主な受賞歴

- 2017 第 4 回 CAF 賞 白石正美賞

以上

大山 エンリコイサム

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://enricoisamuoyama.net/>

Instagram: [@enricoisamuoyama](https://www.instagram.com/enricoisamuoyama)

美術家。ストリートアートの一領域であるエアロゾル・ライティングのヴィジュアルを再解釈したモチーフ「クイックターン・ストラクチャー」を起点にメディアを横断する表現を展開。イタリア人の父と日本人の母のもと、1983年に東京で生まれ、同地に育つ。2007年に慶應義塾大学卒業、2009年に東京藝術大学大学院修了。2011-12年にアジア・カルチュラル・カウンシルの招聘でニューヨークに滞在以降、ブルックリンにスタジオを構えて制作。これまでに大和日英基金（ロンドン）、マリアンナ・キストラ・ビーチ美術館（カンザス）、ポーラ美術館（箱根）、中村キース・ヘリング美術館（山梨）、タワー49ギャラリー（ニューヨーク）、神奈川県民ホールギャラリー、慶應義塾ミュージアム・コモンズ（東京）などで個展を開催。『アゲインスト・リテラシー』（LIXIL出版）、『ストリートアートの素顔』（青土社）、『ストリートの美術』（講談社）、『エアロゾルの意味論』（青土社）などの著作を刊行。『美術手帖』2017年6月号を企画・監修したほか、コム デ ギャルソン、シュウ ウエムラ、JINS、アウディなどの企業やブランドとコラボレーションを実施。大相撲令和4年1月場所では、横綱照ノ富士の「三つ揃え化粧廻し」にアートワークを提供し、話題となった。2023年3月に東京・天王洲で開催されたアートフェア「MEET YOUR ART FAIR 2023「RE:FACTORY」」ではアーティスティック・ディレクターを務め、多角的に仕事をする。2020年には東京にもスタジオを開設し、現在は二都市で制作を行なう。

略歴

- 1983 東京生まれ
- 2007 慶應義塾大学環境情報学部卒業
- 2009 東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了

主な個展

- 2009 「FFIGURATI」 con tempo（東京）
- 2013 「Aeromural」 Clocktower Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
- 2014 「Letterscape,」
イセ・カルチュラル・ファウンデーション・フロントスペース（ニューヨーク、アメリカ）
「Quick Turn Structure」
ニュージャージー・シティ大学ビジュアルアーツ・ギャラリー（ニュージャージー、アメリカ）
- 2015 「Improvised Mural」 Triangle Space, ロンドン芸術大学チェルシー・カレッジ（ロンドン、英国）
- 2016 「Like A Prime Number」 大和日英基金（ロンドン、英国）
「Present Tense」 Takuro Someya Contemporary Art（東京）
- 2017 「Ubiquitous: Enrico Isamu Ōyama」 Marianna Kistler Beach Museum of Art（カンザス、アメリカ）

- 2018 「Black」 Takuro Someya Contemporary Art (東京)
- 2019 「Kairosphere」 ポーラ美術館 (神奈川)
「Inside Out」 Tower 49 Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
「Viral」 中村キースヘリング美術館 (山梨)
- 2020 「SPRAY LIKE THERE IS NO TOMORROW」 藤沢アートスペース (神奈川)
「夜光雲」 神奈川県民ホールギャラリー (神奈川)
- 2022 「Epiphany」 Takuro Someya Contemporary Art (東京)
「Altered Dimension」 慶應義塾ミュージアム・commons (KeMCo) (東京)

主なグループ展

- 2009 「memento vivere / memento phantasma」 旧フランス大使館 (東京)
- 2010 「あいちトリエンナーレ 2010」 (愛知)
- 2011 「世界におけるイタリアのアーティスト展」 イタリア文化会館 (東京)
- 2012 「フィジカル速度 / Physical Kinetics」 Takuro Someya Contemporary Art (東京)
- 2013 「JAPANESE ARTISTS IN NEW YORK」 丸の内ハウス (東京)
「生成のヴィジュアル - 触発のつらなり」 Takuro Someya Contemporary Art (千葉)
- 2014 「KISS THE HEART #3」 伊勢丹新宿+三越日本橋+三越銀座 (東京)
- 2015 「大山エンリコイサム、岡崎乾二郎、今井俊介」 Takuro Someya Contemporary Art (東京)
- 2016 「VOCA展 2016」 上野の森美術館 (東京)
「CRUSH ON ART」 セゾン現代美術館 (長野)
- 2017 「Sites of Knowledge」 Jane Lombard Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2018 「Subtle Abstractions」 Dietl International (ニューヨーク、アメリカ)
- 2019 「Takahashi Collection: The Hometown for Art」 鶴岡アートフォーラム (山形)
「Drawing: Manner」 Takuro Someya Contemporary Art (東京)
- 2020 「-Inside the Collector's Vault, vol.1- 解き放たれたコレクション」 高橋龍太郎コレクション
WHAT MUSEUM (寺田倉庫) (東京)
- 2021 「TOKYO ART & PHOTOGRAPHY」 Ashmolean Museum (オックスフォード、英国)
「CADAN ROPPONGI presented by Audi」 六本木ヒルズカフェスペース (東京)
「特別展示 | 岡崎乾二郎、大山エンリコイサム、ラファエル・ローゼンダール」
Takuro Someya Contemporary Art (東京)
「Drawn Together」 Jane Lombard Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2022 「ヴォイド オブ ニッポン 77 戦後美術史のある風景と反復進行」 GYRE GALLERY (東京)
- 2023 「RE:FACTORY」 寺田倉庫 G1 ビル・G3 ビル (東京)

以上

岡崎 乾二郎

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://kenjirookazaki.com/jpn/>

造形作家。

1955 年東京生まれ。1982 年パリ・ビエンナーレ招聘以来、数多くの国際展に出品。総合地域づくりプロジェクト「灰塚アースワーク・プロジェクト」の企画制作、「なかつくに公園」（広島県庄原市）等のランドスケープデザイン、「ヴェネチア・ビエンナーレ第 8 回建築展」（日本館ディレクター）、現代舞踊家トリシャ・ブラウンとのコラボレーションなど、つねに先鋭的な芸術活動を展開してきた。東京都現代美術館（2009-2010 年）における特集展示では、1980 年代の立体作品から最新の絵画まで俯瞰。2014 年の BankART1929「かたちの発語展」では、彫刻やタイルを中心に最新作を発表した。長年教育活動にも取り組んでおり、芸術の学校である四谷アート・ステュディオム（2002-2014 年）を創設、ディレクターを務めた。2017 年には豊田市美術館にて開催された『抽象の力ー現実（concrete）展開する、抽象芸術の系譜』展の企画制作を行った。

2019 年-2020 年には同じく豊田市美術館にて全館を使って絵画、彫刻、レリーフなど、旧作から最新作までを展示し、これまでの活動を網羅した大規模な個展「視覚のカイソウ」が開催された。

主著に『ルネサンス 経験の条件』（筑摩書房、2001 年、文藝ライブラリー、2014 年）、『抽象の力 近代芸術の解析』（亜紀書房、2018 年、第 69 回芸術選奨文部科学大臣賞）、『感覚のエデン（岡崎乾二郎批評選集 vol.1）』（亜紀書房、2021 年、第 76 回毎日出版文化賞（文化・芸術部門））、『絵画の素 TOPICA PICTUS』（岩波書店 2022 年）。作品集に『視覚のカイソウ』（ナナロク社、2020 年）、『TOPICA PICTUS』（urizen、2020 年）など。

略歴

1955 年 東京生まれ

主な個展

- 1981 「たてもののきもち building through construction」村松画廊（東京）
- 1982 「個展」村松画廊（東京）
- 1984 「個展」お茶の水画廊（東京）
- 1985 「個展」ANDO ギャラリー（東京）
- 1986 「個展」南天子画廊（東京）
- 1987 「個展」南天子画廊（東京）
- 1988 「個展」ヒルサイドギャラリー（東京）
- 1989 「時のかたち」世田谷美術館（東京）
- 1990 「個展」天画廊（福岡）
- 1991 「個展」ヒルサイドギャラリー（東京）
- 1992 「個展」oxy ギャラリー（大阪）
- 1994 「個展」アジャン美術館（アジャン、フランス）

- 1995 「個展」 T3 コレクション・ギャラリー（東京）
- 1996 『個展「平面新作」』南天子画廊（東京）
- 1999 「個展」 ゆーじん画廊（東京）
- 2000 「個展」 南天子画廊（東京）
- 2002 「個展」 セゾンアートプログラムギャラリー（東京）
- 2004 「個展」 GALLERY OBJECTIVE CORRELATIVE（東京）
- 2005 「Painting」 南天子画廊（東京）
- 2006 「個展」 ゆーじん画廊（東京）
- 2007 「ZERO THUMBNAIL」 A-things（東京）
- 2008 「個展」 南天子画廊（東京）
- 2009 「個展」 ガレリア フィナルテ（愛知）
「MOT コレクション特集展示 岡崎乾二郎」 東京都現代美術館（東京）
- 2010 「個展」 南天子画廊（東京）
- 2011 「個展」 ガレリア フィナルテ（愛知）
- 2014 「みだるるみだるるながきかみちいさきちょうとちいさきはな篇」 nowaki（京都）
- 2015 「個展」 ガレリア フィナルテ（愛知）
- 2016 「個展」 Takuro Someya Contemporary Art（東京）
- 2017 「“Things” never die. It only changes its form. Kenjiro Okazaki paintings」 A-things（東京）
- 2018 「個展」 ガレリア フィナルテ（愛知）
- 2019 「岡崎乾二郎 視覚のカイソウ」 豊田市美術館（愛知）
- 2020 「A Decade or So Ago・As Tears Go By」 Takuro Someya Contemporary Art（東京）
「岡崎乾二郎 TOPICA PICTUS こざかほんまち」 豊田市美術館（愛知）
「岡崎乾二郎 TOPICA PICTUS てんのうず」 Takuro Someya Contemporary Art（東京）
「岡崎乾二郎 TOPICA PICTUS たけばし」 東京国立近代美術館（東京）
「岡崎乾二郎 TOPICA PICTUS きょうばし」 南天子画廊（東京）
- 2021 「Kenjiro Okazaki TOPICA PICTUS / Rue de Turenne」 galerie frank elbaz（パリ、フランス）
「Kenjiro Okazaki TOPICA PICTUS / La Cienega」 Blum & Poe（ロサンゼルス、アメリカ）
- 2022 「TOPICA PICTUS Revisited: Forty Red, White, And Blue Shoestrings And A Thousand Telephones」
Blum & Poe, Tokyo（東京）

主なグループ展

- 1981 「ハラアニュアル 2」 原美術館（東京）
- 1982 「第 12 回パリ・ビエンナーレ」 パリ市立近代美術館（パリ、フランス）
- 1983 「今日の作家展—内面化される構造」 横浜市民ギャラリー（神奈川）
- 1984 「現代美術の現在—内面化される構造 2」 東京セントラル美術館（東京）
- 1985 「山口の現代美術—迂回のパッサージュ」 山口県立美術館（山口）
- 1986 「五つの表現」 村松画廊（東京）
- 1987 「ART TODAY 1987—趣味の社会への平手打ち」 軽井沢高輪美術館（長野）

- 1988 「TAMA VIVANT'88 —現代美術の6不思議 世界の模型」 シードホール（東京）
- 1989 「ねりまの美術'89」 練馬区立美術館（東京）
「ユーロパリア'89 現代日本美術展」 ゲント現代美術館（ゲント、ベルギー）
- 1990 「Japan Art Today—現代日本美術の多様展」 セゾン現代美術館（長野）
- 1991 「ねりまの美術'91—彫刻の現在」 練馬区立美術館（東京）
- 1992 「Triangle Artists' Workshop」 パインプレインズ（ニューヨーク、アメリカ）
- 1993 「Exchange 2」 セドハーレ（チューリッヒ、スイス）
- 1994 「戦後日本の前衛美術—Scream Against The Sky」 グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 1995 「視ることのアレゴリー—1995：絵画・彫刻の現在」 セゾン美術館（東京）
- 1996 「美術家の冒険 多面化する表現と手法」 国立国際美術館（大阪）
- 1997 「庭園の会話」 文房堂ギャラリー（東京）
- 1999 「SURFACE」 バンプ芸術センター（バンプ、カナダ）
- 2000 「さまざまな眼 112 ジュリオ・ロマーノもまた、才能がある。」 かわさき IBM ギャラリー（神奈川）
- 2001 「岡崎乾二郎×岡田修二展」 京都芸術センター（京都）
- 2002 「ART TODAY 2002」 セゾン現代美術館（長野）
「ヴェネチア・ビエンナーレ第8回建築展 日本館（ヴェネチア、イタリア）
「大分現代美術展 2002 アート循環系サイト」 大分市立美術館（大分）
- 2004 「Straight no chaser 展 迂回のパッサージュ」 人形町エキジビットスペース Vision's（東京）
- 2005 「BankART Life 24 時間のホスピタリティー ～展覧会場で泊まれるか？～」 BankART（神奈川）
- 2007 「「森」としての絵画：「絵」のなかで考える Painting as Forest : Artist as Thinker」
岡崎市美術博物館（愛知）
- 2008 「わたしいまめまいしたわ 現代美術にみる自己と他者」 東京国立近代美術館（東京）
- 2009 「Whenever Wherever Festival 2009」 森下スタジオ（東京）
- 2011 「所沢ビエンナーレ 引込線 2011」 旧所沢市立第2 学校給食センター（埼玉）
- 2013 「ET IN ARCADIA EGO 墓は語るか 彫刻と呼ばれる、隠された場所」 武蔵野美術大学美術館（東京）
- 2014 「田中信太郎 岡崎乾二郎 中原浩大 かたちの発語展」 BankART Studio NYK（神奈川）
「泥とジェリー」 東京国立近代美術館（東京）
- 2015 「高松メディアアート祭 The Medium of the Spirit —メディアアート紀元前—」
玉藻公園披雲閣（香川）
- 2018 「起点としての80年代」 金沢21世紀美術館（石川）
「視覚芸術百態：19のテーマによる196の作品」 国立国際美術館（大阪）
- 2019 「This Must Be the Place（きつとここが帰る場所）＝ 鄙ぶり
—岡崎乾二郎新作とベネッセアートサイト直島—」 ベネッセハウスミュージアム（香川）
「Parergon: Japanese Art of the 1980s and 1990s Curated by Mika Yoshitake Part II」
Blum & Poe（ロサンゼルス）

神楽岡 久美

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <http://www.kumi-kaguraoka.com/>

Twitter: [@kumi_kaguraoka](https://twitter.com/kumi_kaguraoka)

Instagram: [@kumi_kaguraoka](https://www.instagram.com/kumi_kaguraoka)

神楽岡は2012年に武蔵野美術大学院を修了し、「美的身体のメタモルフォーゼ」をテーマに、鼻を高くするために頭にかぶり骨を引っ張る装置、足を長くするためのギプスなど、身体を「美的」に変容させるための装置を制作。その残酷な美しさは、「美とは何か」という問いを秘めている。2015年、スパイラルが主催する若手作家の発掘・育成を目的にしたアート・フェスティバル「SICF」でグランプリを受賞。近年では西武渋谷店ギャラリー、Spiral、Wacoal Study Hall Galleryにて個展を開催。また2019年、京都大学で開催された国際シンポジウム「Art Innovation」公募展にて山峰潤也賞を受賞。2022年、吉野石膏美術振興財団よりニューヨークでの在外研修アーティストに選定されている。

略歴

東京都出身

2012 武蔵野美術大学大学院造形研究科デザイン専攻空間演出デザインコース 修了

主な個展

2015 「光を摘む」 spiral (東京)

2016 「光を摘む—光の記録—」 BRÜCKE (東京)

「身体と世界の対話 vol.1 Dialogue between the Body and the World (2015-2016)」

T-Art Gallery (東京)

2018 「身体と世界の対話 vol.2」 ワコールスタディホール京都 (京都)

2019 「KUMI KAGURAOKA solo Exhibition Study of Metamorphose.」 Fab Cafe Tokyo (東京)

「Metamorphosis to a beautiful body. KUMI KAGURAOKA solo Exhibition.」 西武渋谷店 (東京)

2020 「Study of Non-verbal-communication.」 gallery ON THE HILL (東京)

2022 「The Metamorphoses of Beautiful Bodies.—未来の美的身体について」 西武渋谷店 (東京)

主なグループ展

2015 「シブヤスタイル vol.9」 西武渋谷店 (東京)

「BankART Artist in Residence OPEN STUDIO 2015」 BankART1929 (神奈川)

2016 「SICF16 WINNERS EXHIBITION」 spiral (東京)

2017 「シブヤスタイル vol.11」 西武渋谷店 (東京)

2020 「ブレイク前夜 in 代官山ヒルサイドテラス

時代を突っ走れ！小山登美夫セレクションのアーティスト 38人」代官山ヒルサイドテラス (東京)

- 「ワンピース倶楽部展 vol.13 『はじめてかもしれない』」 3331 Arts Chiyoda (東京)
- 2022 「The REBEL Exhibition」 The Untitled Space (ニューヨーク、アメリカ)
- 「kapCHər」 The New York Art Residency and Studios Foundation (ニューヨーク、アメリカ)
- 「Traces」 The New York Art Residency and Studios Foundation (ニューヨーク、アメリカ)
- 「Sift」 The New York Art Residency and Studios Foundation (ニューヨーク、アメリカ)

主な受賞歴

- 2015 「SICF16」 グランプリ
- 2019 「京都大学ロンドン大学ゴールドスミス校アートサイエンス国際シンポジウム Art Innovation」
山峰潤也賞
- 2021 「吉野石膏美術振興財団」 在外研修助成アーティスト選定
- 2022 「New York Art Residency and Studios (NARS) Foundation」
ニューヨーク/ プログラム所属アーティスト選定

以上

掛井 五郎

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <http://goro-kakei.or.jp/>

<https://www.takaishiigallery.com/jp/archives/28688/>

1930 年、静岡県に生まれる。高校在学中、木内克の彫刻作品と出会ったことをきっかけに彫刻家になることを決意し、東京藝術大学彫刻専攻科に入学、大学院へと進む。1957 年、新制作展に出品した《受胎告知》で新作家賞を受賞。以降出品を重ね、1961 年、新制作協会会員となる。1965 年、サンパウロ・ビエンナーレへの参加を機にアメリカ、トリニダード・トバゴ、ブラジル、メキシコを周遊。その後 1968 年から 2 年間、メキシコに渡り大学で教鞭をとる。立体作品のみならず、油彩、ドローイング、エッチング、リトグラフなど、多彩な素材・技法を駆使して、ヒューマニティやユーモアに富んだ作品を数多く残した。

2021 年、死去。享年 91。

略歴

- 1930 静岡県生まれ
- 1953 東京藝術大学美術学部彫刻専攻科卒業
- 1955 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了
- 1962-1996 青山学院女子短期大学芸術学科教授
- 2017 一般財団法人掛井五郎財団設立
- 2021 死去 享年 91

主な個展

- 1993 「有鄰館と掛井五郎の仕事展」有鄰館（群馬）
- 1999 「掛井五郎展 北に東に」中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館（北海道）
- 2011 「掛井五郎・夏の森」大川美術館（群馬）
- 2014 「掛井五郎展」東京アートミュージアム（東京）
- 2023 「哀歌」東京アートミュージアム（東京）
- 2023 「掛井五郎」タカ・イシイギャラリー（東京）

主なグループ展

- 1963 「彫刻の新世代展」東京国立近代美術館（東京）
- 1991 「日本近代彫刻の一世紀：写真表現から立体造形へ」茨城県立近代美術館（茨木）
* 徳島県立近代美術館（徳島）に巡回
- 2021 「STORIES 作品について学芸員（わたしたち）が知っていること」静岡県立美術館（静岡）

主な受賞歴

- 1957 第21回新制作協会 新作家賞
1976 第7回中原悌二郎賞 優秀賞
1977 第7回現代日本彫刻展 神戸市須磨離宮公園賞
1981 第9回現代日本彫刻展 東京国立近代美術館賞、神奈川県立近代美術館賞
第2回高村光太郎賞 優秀賞
1983 第1回浅野順一賞
1984 第13回長野市野外彫刻賞
1992 第23回中原悌二郎賞

以上

加藤 泉

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://izumikato.com/>

1969 年、島根県に生まれる。胎児、昆虫、植物などを彷彿とさせる、原始的で匿名的な生命体を主なモチーフとして、有機的なフォルムを特徴とする油彩画や木彫を制作。2005 年にニューヨークのジャパン・ソサエティー・ギャラリーで開催された「リトルボーイ：爆発する日本のサブカルチャー・アート」展に参加。2007 年には、ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展に招聘され国際的に注目を集める。2000 年代から木彫作品を発表し、現在は、ソフトビニール、石、布、プラモデルなど幅広い素材を使い制作している。現在、東京都と香港を拠点に活動。

略歴

- 1969 島根県生まれ
- 1992 東京、香港にて活動

主な個展

- 1995 「加藤泉展」藍画廊（東京）
- 1999 「さまざまな眼 98 加藤泉展」かわさき IBM 市民文化ギャラリー（神奈川）
- 2000 「加藤泉展」藍画廊（東京）
「IZUMI KATO」23GALLERY（東京）
- 2001 「1995～99 加藤泉展」23GALLERY（東京）
「クリテリウム 46 加藤泉」水戸芸術館現代美術ギャラリー（茨城）
「Izumi KATO Exhibition」Murata & Friends（ベルリン、ドイツ）
「新世代への視点 2001「絵画」画廊からの発言 加藤泉」藍画廊（東京）
- 2002 「加藤泉展」ガレリア・キマイラ（東京）
- 2003 「Drawings 1996-2003 IZUMI KATO」23GALLERY（東京）
「加藤泉展」藍画廊（東京）
- 2004 「αM プロジェクト vol.5 加藤泉展」art space kimura ASK?（東京）
「IZUMI KATO」Murata & Friends（ベルリン、ドイツ）
- 2005 「Izumi Kato」ガレリア エンリコ アスツニ（ピエトラサンタ、イタリア）
「加藤泉展「裸の人」」SCAI THE BATHHOUSE（東京）
- 2006 「Izumi Kato」Murata & Friends（ベルリン、ドイツ）
- 2007 「黙」高橋コレクション（東京）
「人へ」ARATANIURANO（東京）
- 2008 「加藤泉 The Riverhead」上野の森美術館ギャラリー（東京）
- 2010 「SOUL UNION」ARATANIURANO（東京）

- 「加藤泉 日々に問う」彫刻の森美術館（神奈川）
- 2011 「『絵と彫刻』加藤泉作品集出版記念展」ARATANIURANO / NADiff Gallery（東京）
「はるかなる視線」COMME des GARÇONS Six（大阪）
- 2012 「加藤泉展－SOUL UNION DELUXE－」霧島アートの森（鹿児島）
- 2014 「IZUMI KATO」ギャラリー・ペロタン（香港、中国）
「Soft Vinyl Sculptures」CAPSULE / SUNDAY（東京）
「IZUMI KATO」ギャラリー・ペロタン（パリ、フランス）
- 2016 「IZUMI KATO」ギャラリー・ペロタン（ニューヨーク、アメリカ）
- 2017 「加藤泉」Take Ninagawa（東京）
「New Prints and Drawings」Item Éditions（パリ、フランス）
「Lithographs」ペロタン（東京）
- 2018 「IZUMI KATO」ペロタン（香港、中国）
「加藤泉」レッドブリック美術館（北京、中国）
「Izumi Kato」ペロタン（ソウル、韓国）
- 2019 「Izumi Kato」Fundación Casa Wabi（プエルト エスコンディード、メキシコ）
「Izumi Kato: Like A Rolling Stone」Item Éditions（パリ、フランス）
「IZUMI KATO」ペロタン（上海、中国）
「加藤泉-LIKE A ROLLING SNOWBALL」ハラミュージアム アーク（群馬）／原美術館（東京）
- 2020 「IZUMI KATO」ペロタン（パリ、フランス）
- 2021 「IZUMI KATO」ペロタン（ニューヨーク、アメリカ）
「STAND BY YOU」SCAD Museum of Art（サバンナ、アメリカ）
- 2022 「Izumi Kato-From the Sea」Item Éditions（パリ、フランス）
「加藤泉-寄生するプラモデル」ワタリウム美術館（東京）
「IZUMI KATO」ステーブン・フリードマン・ギャラリー（ロンドン、英国）
- 2023 「IZUMI KATO」ペロタン（パリ、フランス）
「PARASITIC: ONITSUKA」タイガーギャラリー（ロンドン、英国）

主なグループ展

- 2002 「VOCA 展 2002 現代美術の展望－新しい平面の作家たち」上野の森美術館（東京）
- 2004 「孤独な惑星－lonely planet」水戸芸術館現代美術ギャラリー（茨城）
- 2005 「リトルボーイ：爆発する日本のサブカルチャー・アート」
ジャパン・ソサエティー・ギャラリー（ニューヨーク、アメリカ）
- 2006 「内なるこども The Child」豊田市美術館（愛知）
- 2007 「MOT アニュアル 2007 等身大の約束」東京都現代美術館（東京）
第 52 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展「Think with the Senses—Feel with the Mind. Art in the Present Tense」イタリア館、ジャルディーニ（ヴェネチア、イタリア）
- 2008 「ネオテニー・ジャパン－高橋コレクション」霧島アートの森（鹿児島）ほか巡回
- 2012 「ダブル・ヴィジョン－日本現代美術展」モスクワ市近代美術館（モスクワ、ロシア）ほか巡回

- 2017 「Japanorama. A new vision on art since 1970」 ポンピドゥ・センター・メス（メス、フランス）
- 2019 「CONTACT つなぐ・むすぶ 日本と世界のアート」 清水寺（京都）
「Thousand-Armed Guanyin」 レッドブリック美術館（北京、中国）
- 2020 「生命の庭 - 8人の現代作家が見つけた小宇宙」 東京都庭園美術館（東京）
「Unconstrained Textiles: Stitching Methods, Crossing Ideas」
Centre for Heritage, Arts and Textile (CHAT)（香港、中国）
- 2021 「Art Karnival」 K11 MUSEA（香港、中国）
「OKETA COLLECTION : 4G」 スパイラルガーデン（東京）
「Next World - 夢みるチカラ タグチ・アートコレクション×いわき市立美術館」
いわき市立美術館（福島）
「JUST LOOKING, STILL LOOKING, ALWAYS LOOKING」
アランヤ・アートセンター（秦皇島、中国）
- 2022 「Reborn Art Festival 2021-22」 [後期] 石巻市街地、牡鹿半島（宮城）
「UN ÉTÉ AU HAVRE」（ル・アーヴル、フランス）
「ASSEMBLY 1: UNSTORED」 ASSEMBLY（モンティチェロ、アメリカ）
「ハワイ・トリエンナーレ 2022」（ホノルル、アメリカ）

パブリック・コレクション（五十音順）

- アランヤ・アートセンター（秦皇島、中国）
S-HOUSE Museum（岡山）、岡崎市美術博物館（愛知）
神奈川県立近代美術館（神奈川）、金沢 21 世紀美術館（石川）
K11（香港、中国）
国立国際美術館（大阪）
コレクション・ソロ（マドリード、スペイン）
四方当代美術館（南京、中国）
止観美術館（北京、中国）、
ジャピゴッツィコレクション（ジュネーブ、スイス）
Centre for Heritage, Arts and Textile (CHAT)（香港、中国）
高橋龍太郎コレクション（東京）
高松市美術館（香川）
タグチ・アートコレクション（東京）
東京国立近代美術館（東京）
東京都現代美術館（東京）
豊田市美術館（愛知）
トヨタ自動車（愛知）
原美術館（東京）
ベルナール・ビュフェ美術館（静岡）
ミニチュア美術館（デン・ハーグ、オランダ）

龍美術館（上海、中国）

レッドブリック美術館（北京、中国）

ロングラーター財団（香港／上海、中国）

以上

イヴ・クライン

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.yvesklein.com/>

1928年、画家の両親のもとフランスのニースに生まれる。美術の専門教育は受けず、ニースの国立商船学校、国立東洋学校で学ぶ。19歳の頃から柔道を習い始め、その精神性に心酔する。同じ頃、空の中に非物質的な世界を見出し、青色を用いたモノクローム絵画の制作を開始。物質／非物質は、その後の制作のうえでの主題となった。1952年から1年ほど日本に滞在。力士の手形や魚拓、広島原爆など、日本滞在中に触れた物事は、のちの「人体測定」シリーズに影響を与えた。1958年に開催した「第一物質の状態における感性を絵画的感性へと安定させる特殊化」展（通称「空虚」展）では白いペンキで展示空間を塗装し、それ以外は何も展示しない＝空虚を展示するというコンセプトが物議を醸した。1960年には自ら開発した青色の顔料を「インターナショナル・クライン・ブルー」と名づけ特許を取得。同年、美術評論家のピエール・レスタニとともに、「ヌーヴォー・レアリズム」を結成。1961年、西ドイツのハウス・ランゲ美術館で大規模な個展が開かれる。翌1962年、心臓発作のためパリで死去、享年34歳。

略歴

- 1928 フランス、ニース生まれ
- 1942-46 École Nationale de la Marine Marchande（国立商船学校）、
École Nationale des Langues Orientales（国立東洋学校）で学ぶ
- 1962 心臓発作のためパリで死去、享年34歳

主な個展・二人展

- 1955 「Yves Klein」 Club des Solitaires（パリ、フランス）
- 1956 「Propositions monochromes」 Galerie Colette Allendy（パリ、フランス）
- 1957 「Propositions monochromes」 Galerie Iris Clert（パリ、フランス）
「Propositions monochromes」 Galerie Colette Allendy（パリ、フランス）
「Propositions monochromes」 Galerie Schmela（デュッセルドルフ、ドイツ）
「Monochrome Propositions of Yves Klein」 Gallery One（ロンドン、英国）
- 1958 「La spécialisation de la sensibilité à l'état matière première en sensibilité picturale stabilisée」
（通称「空虚」展） Galerie Iris Clert（パリ、フランス）
- 1959 「Vitesse pure et stabilité monochrome (with Jean Tinguely)」 Galerie Iris Clert（パリ、フランス）
「Bas-reliefs dans une forêt d'éponges」 Galerie Iris Clert（パリ、フランス）
- 1960 「Anthropométries de l'Époque bleue」 Galerie Internationale d'Art Contemporain（パリ、フランス）
- 1961 「Monochrome und Feuer」 Museum Haus Lange（クレーフェルト、ドイツ）
「Yves Klein le Monochrome」 Leo Castelli Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
「Yves Klein le Monochrome」 Dwan Gallery（ロサンゼルス、アメリカ）

「Il nuovo realismo del colore」 Galerie Apollinaire (ミラノ、イタリア)

主なグループ展

- 1959 「Vision in Motion」 Hessenhuis (アントワープ、ベルギー)
「Biennale de Paris」 (パリ、フランス)
「Collaboration internationale entre artistes et architectes dans la réalisation du nouvel Opéra de Gelsenkirchen」 Galerie Iris Clert (パリ、フランス)
「Kunstsammler am Rhein und Ruhr: Malerei 1900-1959」
Städtisches Museum (レバークーゼン、ドイツ)
「Dynamo 1」 Galerie Renate Boukes (ヴュースバーデン、ドイツ)
「Works in Three Dimensions」 Leo Castelli Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 1960 「La nouvelle conception artistique」 Galerie Azimut (ミラノ、イタリア)
「Antagonismes」 Musée des Arts décoratifs (パリ、フランス)
「Les Nouveaux Réalistes」 Galerie Apollinaire (ミラノ、イタリア)
- 1961 「A quarante degrés au-dessus de Dada」 Galerie J (パリ、フランス)
- 1962 「Antagonismes II: l'objet」 Musée des Arts décoratifs (パリ、フランス)

以上

桑山 忠明

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.takaishiigallery.com/jp/archives/19920/>

1932年愛知県名古屋市生まれ。1956年に東京藝術大学日本画科を卒業すると、その二年後に渡米し、ニューヨークを拠点として活動を始める。均質に仕上げられた単色のパネルを組み合わせ、一貫して緻密で高い純度の抽象絵画を制作している。70年代以降は、メタリックカラーによる作品が主となり、円や三角形などのキャンバスの使用も試みた。メタリックカラーを使用する理由としては「人工的でありたい。自然をアートに介入させたくない。」と述べている。90年代には、ドイツをはじめとする世界各地で、同形同大のパネルを多数展示するプロジェクトを行った。

略歴

- 1932 愛知県名古屋市生まれ
- 1956 東京藝術大学日本画科卒業
- 2023 死去 享年 91

主な個展

- 1961 「PAINTINGS」グリーン画廊（ニューヨーク、アメリカ）
- 1985 「A Retrospective 1960-1985」北九州市立美術館（福岡）
- 1996 「プロジェクト'96」川村記念美術館（千葉）
- 2000 「Positionenreihe 17」ルペルティヌム近代美術館（ザルツブルグ、オーストリア）
- 2011 「WHITE 桑山忠明 大阪プロジェクト」国立国際美術館（大阪）
- 2012 「HAYAMA」神奈川県立近代美術館 葉山（神奈川）
- 2018 タカ・インイギャラリー（東京）

主なグループ展

- 1966 「色彩の形体」アムステルダム市立美術館（アムステルダム、オランダ）
- 1995 「戦後日本の前衛美術」サンフランシスコ近代美術館（サンフランシスコ、アメリカ）他
- 2009 「ザ・サードマインド：アジアを見つめるアメリカの作家たち 1860-1989」グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2011 「表面、支持体、プロセス：グッゲンハイム・コレクションによる 1960年代のモノクローム」グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）

以上

小西 紀行

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <http://anomalytokyo.com/artist/toshiyuki-konishi/>

小西紀行

1980 年、広島県生まれ、広島県在住。

小西紀行は、自身の家族のアルバムや身近な人々のスナップ写真をもとに、筆やタオル、手指などを用い、大胆で伸びやかなストロークで細部を削ぎ落とす特徴的な表現方法で人(ヒト)を描き続けている。心理学者だった祖父との対話を通じ、人間の判断基準や行動を客観的に捉える視点を早くから獲得し、描くことで思考を深めてきた小西が描く人体は、波打ち、歪み、面の中に浮かび上がる。人工的環境と自然とのせめぎ合いの間で、脆さや定まらなさの感覚とともに生きざるを得なくなった変容する人間の意識や身体を如実に描き出す。

近年の主な展覧会に「UNDER CURRENT」Powerlong Museum (上海、2022 年)、「コレクション展 アジアの風景」金沢 21 世紀美術館 (石川、2018 年)、「ヨコハマトリエンナーレ 2017-島と星座とガラパゴス」、「コレクション展 2 ダイアリー」金沢 21 世紀美術館 (石川、2016 年)、「ノスタルジー& ファンタジー：現代美術の想像力とその源泉」国立国際美術館 (大阪、2014 年)、「絵画の在りか」東京オペラシティアートギャラリー (東京、2014 年) など。

2016 年に Prudential Eye Awards 2016 ファイナリストに選出された。今年 7 月から中国・秦皇島市の Aranya Art Center で個展「Toshiyuki Konishi」が開催される。

略歴

1980 広島県生まれ

2007 武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了

主な個展

2008 「千年生きる」カフェ小倉山、横浜美術館 (神奈川県)

2012 「絵画、それを愛と呼ぶことにしよう vol.5」gallery α M (東京)

2014 「ART BASEL HONG KONG 2015」(香港、中国)

2017 「私たちの習性」AIKE DELLARCO (上海、中国)

「群れの記憶」URANO (東京)

2020 「内なる基準」ANOMALY (東京)

2023 「Toshiyuki Konishi」Aranya Art Center (秦皇島、中国)

主なグループ展

2014 「ノスタルジー&ファンタジー：現代美術の想像力とその源泉」国立国際美術館 (大阪)

「絵画の在りか」東京オペラシティアートギャラリー (東京)

2016 「Prudential Eye Awards Exhibition」ArtScience Museum (シンガポール)

「カンバセーション_ピース：かたちを(た)もたない記録 小西紀行+AHA!」

武蔵野市立吉祥寺美術館（東京）

「コレクション展2 ダイアリー」金沢21世紀美術館（石川）

2017 「ヨコハマトリエンナーレ 2017 島と星座とガラパゴス」横浜赤レンガ倉庫1号館（神奈川）

2018 「コレクション展 アジアの風景」金沢21世紀美術館（石川）

2022 「UNDER CURRENT」 Powerlong Art Museum（上海、中国）

以上

小林 正人

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <http://www.masart.jp/>

Web: <https://shugoarts.com/artist/51/>

1957年、東京に生まれる。東京藝術大学美術学部油画専攻を卒業後、80年代半ばより絵画の在り方を独自に探究する作品を発表。「白いキャンバスを木枠に張ってから描き始めるのでは遅い」として、絵の具をチューブから直接手にとり、キャンバスを張りながら描くことで、イメージと空間を同時に立ち上げていくスタイルを確立する。1996年、サンパウロ・ビエンナーレに日本代表として参加し、翌97年、現代美術のキュレーター、ヤン・フートの招きによりベルギーのアントワープに拠点を移す。2006年に帰国後は、広島県の鞆の浦にアトリエを構え制作を行っている。主なパブリックコレクションに、東京国立近代美術館、東京都現代美術館、セゾン現代美術館、S.M.A.K. ゼント市立現代美術館ほか。近年は自伝小説『この星の絵の具』を執筆し、2018年に上巻、20年に中巻を上梓した。

略歴

- 1957 東京都生まれ
- 1984 東京藝術大学美術学部油画専攻卒業

主な個展・二人展

- 1985 「絶対絵画」鎌倉画廊（東京）
- 1986 「第2回新世代展」佐谷画廊（東京）
- 1989 「Masato Kobayashi 1987-88」佐谷画廊（東京）
- 1991 「空戦」佐谷画廊（東京）
- 1992 「絵画の子」佐谷画廊（東京）
- 1993 「新作展」佐谷画廊（東京）
- 1995 「新作ペインティング&ドローイング」佐谷画廊（東京）
- 1997 「新作展」佐谷画廊（東京）
- 1998 「夜に」佐谷画廊（東京）
- 2000 「小林正人展」宮城県美術館（仙台）
佐賀町エキジビットスペース（東京）
- 2001 「A Son of Painting」S.M.A.K. ゼント市立現代美術館（アントワープ、ベルギー）
「Another “Son of Painting”」S. Cole Gallery（アントワープ、ベルギー）
- 2002 「Paintings in Situ」Rice Gallery by G2（東京）
- 2004 「Starry Paint」テNSTA・クンストハーレ（ストックホルム、スウェーデン）
「星の絵の具」シュウゴアーツ（東京）
- 2005 「Starry Paint」フートベカートギャラリー（アントワープ、ベルギー）

- 2006 「光」高橋コレクション（東京）
「The Nude」シュウゴアーツ（東京）
- 2007 「ライトペインティング」シュウゴアーツ（東京）
- 2009 「この星の絵の具」高梁市成羽美術館（岡山）
- 2010 「LOVE もっとひどい絵を！ 美しい絵 愛を口にする以上」シュウゴアーツ（東京）
- 2012 「ART TODAY 2012 弁明の絵画と小林正人」セゾン現代美術館（長野）
「LOVE もっとひどい絵を！ 美しい絵 愛を口にする以上 2012, spring シュウゴアーツ（東京）
- 2013 「絵画、それを愛と呼ぶことにしよう vol.9 小林正人+杉戸洋」ギャラリー aM（東京）
- 2014 「名もなき馬」シュウゴアーツ（東京）
- 2016 「Thrice Upon A Time」シュウゴアーツ（東京）
- 2019 「画家とモデル」シュウゴアーツ（東京）
- 2021 「この星の家族」シュウゴアーツ（東京）
- 2022 「MASATO KOBAYASHI+KENGO KITO」MtK Contemporary Art（京都）
- 2023 小林正人個展 9月開催予定 シュウゴアーツ（東京）

主なグループ展

- 1986 「開館5周年記念 現代日本の美術3 戦後生まれの作家たち(第1期)」宮城県美術館（宮城）
- 1987 「現代のアイコン」埼玉県立近代美術館（埼玉）
- 1989 「現代美術への視点 色彩とモノクローム」東京国立近代美術館（東京）、京都国立近代美術館（京都）
「ドローイングの現在」国立国際美術館（大阪）
- 1991 「色相の詩学展 現代美術・平面からのメッセージ」川崎市市民ミュージアム（神奈川）
- 1992 「筆あとの誘惑」京都市美術館（京都）
- 1994 「VOCA展'94-新しい平面の作家たち-」上野の森美術館（東京）
「光と影：うつろいの詩学」広島市現代美術館（広島）
- 1995 「VOCA展'95-新しい平面の作家たち-」上野の森美術館（東京）
「視ることのアレゴリー-1995：絵画・彫刻の現在」セゾン美術館（東京）
「現代美術への視点：絵画、唯一なるもの」東京国立近代美術館（東京）、
京都国立近代美術館（京都）
- 1996 「第22回サンパウロビエンナーレ」（サンパウロ、ブラジル）
- 1999 「開館記念展」S.M.A.K. ゲント市立現代美術館（ゲント、ベルギー）
- 2000 「Over the Edges」S.M.A.K. ゲント市立現代美術館（ゲント、ベルギー）
- 2002 「未完の世紀：20世紀がのこすもの」東京国立近代美術館（東京）
- 2003 「ティラナ・ビエンナーレ：U-Topos」（ティラナ、アルバニア）
- 2007 「天空の美術」東京国立近代美術館（東京）
- 2009 「現代美術の展望 12人の地平線」東京ステーションギャラリー（東京）
「The Biennale Knokke Zoute 2009」クノック（ベルギー）
- 2010 「Mediations Biennale」ポズナン国立美術館（ポズナン、ポーランド）
「メモリー／メモリアル 65年目の夏に」広島市現代美術館（広島）

- 「ドローイング イン ザ ダーク」東京国立近代美術館（東京）
- 2013 「ひとの姿 人のかたち」新潟県立万代島美術館（新潟）
- 2016 「村上隆のスーパーフラット・コレクション—蕭白、魯山人からキーファーまで」
横浜美術館（神奈川）
- 「生きとし生けるもの」ヴァンジ彫刻庭園美術館（静岡）
- 2017 「蜘蛛の糸」豊田市美術館（愛知）
- 「色で楽しむ現代美術」千葉市美術館（千葉）
- 「三沢厚彦 アニマルハウス謎の館」渋谷区立松濤美術館（東京）
- 2018 「ニュー・ウェイブ 現代美術の 80 年代」国立国際美術館（大阪）
- 「バブルラップ」熊本市現代美術館（熊本）
- 2019 「百年の編み手たち—流動する日本の近現代美術—」東京都現代美術館（東京）
- 2020 「生命の庭 8 人の現代作家が見つけた小宇宙」東京都庭園美術館（東京）
- 2021 「神宮の杜芸術祝祭：気韻生動—平櫛田中と伝統を未来へ継ぐものたち」明治神宮 宝物殿（東京）
- 「MOMAT コレクション特別編 ニッポンの名作 130 年」東京国立近代美術館（東京）
- 2023 「千葉市美術館コレクション選 特集：小林正人 空戦・絵画の子」千葉市美術館（千葉）

以上

ル・コルビュジェ

1887年、スイスのラ・ショー・ド・フォンに生まれる。本名、シャルル・エドゥアール・ジャンヌレ。20世紀を代表する建築家であり、フランク・ロイド・ライト、ミース・ファン・デル・ローエとともに、近代建築の三大巨匠と称される。コンクリート建築の先駆者オーギュスト・ペレや、ドイツ工作連盟の中心人物ペーター・ベーレンスの事務所で建築を学んだのち、ヨーロッパ各地への旅を経て、1917年、パリに転居。そこで画家アメデ・オザンファンとともに「ピュリスム（純粹主義）」を提唱し、絵画制作に取り組みながら、1920年に自ら創刊した雑誌『レスプリ・ヌーヴォー（新精神）』において、「ル・コルビュジェ」のペンネームで建築論を展開する。鉄筋コンクリートを活用した建築理論「ドミノ・システム」や、身体に合う建築寸法の黄金比「モデュール」、新しく自由な建築のための要点「近代建築の五原則」などを著作やCIAM（近代建築国際会議）で発表し、世界の建築家に多大な影響を与えた。代表作に「サヴォア邸」（1928）、「ユニテ・ダビタシオン」（1952）、「ロンシャンの礼拝堂」（1955）、「チャンディガールの都市計画」ほか。日本では「国立西洋美術館」（1959）がコルビュジェの基本設計による。2016年、日本を含む7か国に現存する建築作品がユネスコ世界文化遺産に登録された。

略歴

- 1887 スイス ラ・ショー・ド・フォン生まれ
- 1920 画家のアメデ・オザンファンらとともに雑誌『レスプリ・ヌーヴォー』を創刊
- 1922 従兄弟のピエール・ジャンヌレとともに建築事務所を開設
- 1966 死去、享年 77

主な展覧会

- 1987 「Le Corbusier (1887-1965)」 ソフィア王妃芸術センター（マドリード、スペイン）
- 1996 「ル・コルビュジェ展」 セゾン美術館（東京）ほか巡回
- 2007 「ル・コルビュジェ展」 森美術館（東京）
- 2009 「Le Corbusier - The Art of Architecture」 バービカン・アートギャラリー（ロンドン、英国）
- 2013 「Le Corbusier: An Atlas of Modern Landscapes」
ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）ほか国際巡回
- 2015 「Le Corbusier Mesures de l'homme」 ポンピドゥー・センター（パリ、フランス）
- 2019 「ル・コルビュジェ 絵画から建築へーピュリスムの時代」 国立西洋美術館（東京）

主な受賞歴

- 1961 AIA（アメリカ建築協会）ゴールドメダル
- 1964 レジオン・ドヌール勲章グランクロワ

以上

サイトウマコト

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.takaishiigallery.com/jp/archives/25705/>

1952年福岡県生まれ。自身の創作意欲を掻き立てる「顔力」を持つ人物を主題に、90年代半ばより絵画作品の制作を始める。当初はスタンリー・キューブリックなど映画作家や、その作品の1コマに映る人物の全身像イメージを用いたが、やがて人間の狂気が刻み込まれた顔に焦点を絞る。ルシアン・フロイドやフランシス・ベーコン、アントナン・アルトーなど、ポートレートイメージを素材としてコンピューター上で解体・再構成した網点状の設計図を作り、このデジタルデータを受肉させるかのようにキャンバス上に絵筆で描くスタイルを確立。無数のドットを膨大な時間をかけて手作業で描いたサイトウの絵画作品は、圧倒的な視覚体験を我々にもたらす。

略歴

1952 福岡県生まれ

主な個展

- 2008 「サイトウマコト展：SCENE [0]」 金沢 21 世紀美術館（石川）
- 2011 「蜜が蜂を呼ぶように」 小山登美夫ギャラリー（東京）
- 2012 「Face to Face / Composition」 Paul Kasmin Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
- 2014 「Makoto Saito: Portraits」 Ticolat Tamura（香港）
- 2017 「2100」 小山登美夫ギャラリー（東京）
- 2019 「サイトウマコト 臨界－Criticality－」 北九州市立美術館（福岡）
- 2021 「見えるもの、見えないもの。Face Landscape 2021」 タカ・イシイギャラリー（東京）
- 2023 「in Time E.H.」 Acquavella Galleries（パームビーチ、アメリカ）

主なグループ展

- 1977 第 13 回現代日本美術展 東京都美術館（東京）
- 1978 第 12 回日本国際美術展 東京都美術館（東京）
- 1979 第 14 回現代日本美術展 東京都美術館（東京）
- 1980 第 13 回日本国際美術展 東京都美術館（東京）
- 1981 第 15 回現代日本美術展 東京都美術館（東京）
- 1985 第 17 回現代日本美術展 東京都美術館（東京）
「日本現代絵画 83 人展」 国立近代美術館（ニューデリー、インド）
- 1986 第 16 回日本国際美術展 東京都美術館（東京）
- 1987 「現代のアイコン：かみとひととものときの中に」 埼玉県立近代美術館（埼玉）
第 18 回現代日本美術展 東京都美術館（東京）

1989 「地・間・余白：今日の表現から」埼玉県立近代美術館（埼玉）
第19回現代日本美術展 東京都美術館（東京）

主なパブリックコレクション

Stedelijk Museum Amsterdam（アムステルダム、オランダ）

Victoria and Albert Museum（ロンドン、英国）

San Francisco Museum of Modern Art（サンフランシスコ、アメリカ）

The Museum of Modern Art（ニューヨーク、アメリカ）

Philadelphia Museum of Art（フィラデルフィア、アメリカ）

金沢21世紀美術館（石川）

埼玉県立近代美術館（埼玉）

東京国立近代美術館（東京）

富山県美術館（富山）

兵庫県立美術館（兵庫）

福岡県立美術館（福岡）

以上

ヴィルヘルム・サスナル

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.sadiecoles.com/artists/-wilhelm-sasnal/>

ヴィルヘルム・サスナル（1972 年、ポーランド・タルヌフ生まれ）は、クラクフ工科大学で建築を学んだ後（1992–1994 年）、クラクフ美術アカデミー（現ヤン・マテイコ美術アカデミー）で絵画を学ぶ（1994–1999 年）。サスナルは、ここ 20 年の間にヨーロッパで頭角を表し、映画や複製画、ポップカルチャー、また自身の携帯電話で撮影した写真を参照に、そのイメージを単純化、抽象化し、現代社会に氾濫する大量のイメージを表現している。彼の作品はホロコーストのような歴史的テーマや、身近なポップカルチャーのアイコン、身の回りの人々、場所、物などを取り上げることが多く、共産主義後の母国ポーランドの社会政治的変容の時代の映像作品も手がけている。

略歴

- 1972 ポーランド、タルヌフ生まれ
- 1999 クラクフ美術アカデミー絵画科卒業

主な個展

- 2000 「Malarstwo / Painting」
Center of Contemporary Art, Ujazdowski Castle（ワルシャワ、ポーランド）
- 2003 「Interventions: Wilhelm Sasnal」 Museum van Hedendaagse Kunst（アントワープ、ベルギー）
- 2006 「At the Very Center of Attention Part 10: Wilhelm Sasnal - USA」
Center of Contemporary Art, Ujazdowski Castle（ワルシャワ、ポーランド）
- 2007 「Wilhelm Sasnal. Lata Walki / Years of Struggle」
Zacheta National Gallery of Art（ワルシャワ、ポーランド）ほか巡回
- 2010 「16mm films」 Rat Hole Gallery（東京）
- 2018 「ENGINE」 Kistefos-Museet（ノルウェー）
- 2021 「Wilhelm Sasnal」 The Museum of the History of Polish Jews（ワルシャワ、ポーランド）

主なグループ展

- 2002 「Urgent Painting」 パリ市立近代美術館（パリ、フランス）
「4th Gwangju Biennale」（光州、韓国）
- 2004 「Bienal Internacional de Artes de São Paulo」（サンパウロ、ブラジル）
「Time and Again」 Stedelijk Museum（アムステルダム、オランダ）
- 2005 「The Triumph of Painting. Part Two」 Saatchi Gallery（ロンドン、英国）
- 2006 「Polish Painting of the 21st Century」 Zacheta National Gallery（ワルシャワ、ポーランド）
- 2007 「AIRS DE PARIS」 ポンピドゥー・センター（パリ、フランス）

- 「What is Painting?」 ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）
2008 第5回ベルリン・ビエンナーレ「When Things Cast no Shadow」（ベルリン、ドイツ）

主な受賞歴

- 2006 The Vincent Van Gogh Biennial Award for Contemporary Art in Europe
2013 Special Mention Award in the NEW VISIONS category at the Copenhagen International
Documentary Film Festival

以上

許寧 (シュ・ニン)

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <http://tomiokoyamagallery.com/artists/xu-ning/>

Instagram: [@ning_xu_ning](https://www.instagram.com/ning_xu_ning)

1979 年、北京に生まれる。7 歳の頃から水墨画を習い、北京の首都師範大学油画専攻専科を卒業。2006 年、家族とともに日本に移住し多摩美術大学で油画を学ぶ。学部 4 年生の時、「国際瀧富士美術賞」の優秀賞を受賞。大学院の修了制作が「アートアワードトーキョー丸の内 2020」でグランプリを獲得し注目を集める。母国中国の古代思想やネーデルラント絵画をはじめとする宗教画、ドルチェ&ガッバーナのファッションの装飾性と革新性など、時代や国境、ジャンルを超えた様々な事象から影響を受けた作品は、大画面のキャンバスに面相筆で一筆一筆、緻密な作業で描き上げられている。現在、神奈川県を拠点に活動。

略歴

- 1979 中国、北京生まれ
首都師範大学油画専攻専科卒業後、家族とともに日本に移住
- 2020 多摩美術大学大学院修士課程絵画専攻修了

主な個展

- 2021 「Season - Letter」小山登美夫ギャラリー（東京）
- 2022 「天下(WORLD)」小山登美夫ギャラリー天王洲（東京）
- 2023 「Starting with a Tear - HISTORY (涙からはじまる - ヒストリー)」小山登美夫ギャラリー（東京）

主なグループ展

- 2019 「シェル美術賞展 2019」国立新美術館（東京）
- 2021 「第 24 回岡本太郎現代芸術賞 (TARO 賞)」川崎市岡本太郎美術館（神奈川）
「多摩美術大学 TUB 第 1 回企画展『中継地点』」多摩美術大学 TUB（東京）
「交通総合文化展 2021 (パブリックアート普及活動特別展)」JR 上野駅（東京）
「シェル美術賞アーティスト・セレクション (SAS) 2021」国立新美術館（東京）

主な受賞

- 2017 「国際瀧富士美術賞」優秀賞
- 2020 「アートアワードトーキョー丸の内 2020」グランプリ
- 2021 「第 24 回岡本太郎現代芸術賞 (TARO 賞)」入選

以上

アルベルト・ジャコメッティ

関連 URL・SNS 情報

Web: <https://www.fondation-giacometti.fr/>

1901 年、スイスの小村ボルゴノーヴォに生まれる。父はスイス印象派の画家、ジョヴァンニ・ジャコメッティ。1922 年、パリに移りアカデミー・ド・ラ・グラン・ショミエールにおいて、ロダンの弟子ブールデルに学ぶ。ピカソ、エルンスト、ミロらと交流し、シュルレアリスムの作風の彫刻を制作するが、1935 年、シュルレアリスムと訣別し、再び人物モデルを写生する具象彫刻に回帰する。戦後、弟のディエゴや日本人哲学者、矢内原伊作をモデルに試行錯誤を重ね、身体を細長く引き伸ばした新たな彫刻のかたちを確立する。1962 年、第 31 回ヴェネチア・ビエンナーレの彫刻部門で大賞を受賞、チューリヒ美術館で回顧展が開催された。1966 年死去。享年 65。20 世紀を代表する彫刻家であり、1998 年にはスイスの 100 フラン紙幣に彼の肖像が使用された。

略歴

- 1901 スイス、ボルゴノーヴォ生まれ
- 1922-25 パリに移り、アカデミー・ド・ラ・グラン・ショミエールでブールデルに学ぶ
- 1966 死去 享年 65

主な個展

- 1962 「Alberto Giacometti」Kunsthaus Zürich (チューリヒ、スイス)
- 1970 「Alberto Giacometti」the High Museum of Art (アトランタ、アメリカ)
- 2006 「20 世紀美術の探求者 アルベルト・ジャコメッティ 矢内原伊作とともに」
神奈川県立近代美術館 (神奈川) * 兵庫県立美術館 (兵庫)、川村記念美術館 (千葉) に巡回
- 2007 「L'atelier d'Alberto Giacometti: Collection de la fondation Alberto et Annette Giacometti」
Centre Pompidou (パリ、フランス) * Pushkin Museum (モスクワ、ロシア) に巡回
- 2008 「Alberto Giacometti」Kunsthall Rotterdam (ロッテルダム、オランダ)
- 2012 「Alberto Giacometti」Pinacoteca de São Paulo (サンパウロ、ブラジル)
* Museu de Arte Moderna (リオデジャネイロ、ブラジル)、
Fundación PROA (ブエノスアイレス、アルゼンチン) に巡回
- 2015 「Alberto Giacometti」Pera Museum (イスタンブール、トルコ)
- 2017 「Alberto Giacometti Retrospective」Tate Modern (ロンドン、英国)
「ジャコメッティ展」国立新美術館 (東京) * 豊田市美術館 (愛知) に巡回
- 2018 「Alberto Giacometti」Guggenheim Museum (ニューヨーク、アメリカ)
- 2019 「Alberto Giacometti」the Prado Museum (マドリード、スペイン)
- 2022 「Giacometti: From Life」National Gallery of Ireland (ダブリン、アイルランド)
「Alberto Giacometti: Toward The Ultimate Figure」

Seattle Art Museum (シアトル、アメリカ)

受賞

1962 「第31回ヴェネチア・ビエンナーレ」彫刻部門大賞

以上

ドナルド・ジャッド

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://juddfoundation.org/>

Instagram: [@juddfoundation](https://www.instagram.com/juddfoundation)

1928 年アメリカのミズーリ州エクセルシオール・スプリングス生まれ。陸軍従事を経て、1949 年にアート・スチューデント・リーグで美術を、1953 年にコロンビア大学で哲学を学び優秀な成績で卒業。論理実証主義やプラグマティズムに傾倒した。その後コロンビア大学大学院にてメイヤー・シャピロに美術史を学ぶ。従来の絵画形式へ疑問を持ち、1960 年代から立体的なレリーフを使った作品を発表し、64 年には初の業者依頼をした作品制作に取り組む。同年、数列に基づいて部品の長さが決められ、壁に設置される「プログレッション」が初めて制作された。翌年にはマニフェストとも言うべき美術書「明確な物体 (Specific Objects)」を発表。ジャッドは芸術作品における物語性や象徴性からの脱却を目指した。1984 年には RAL カラーチャートを用いた多色刷りの作品で新たな境地を開いた。

略歴

- 1928 アメリカのミズーリ州エクセルシアースプリングス生まれ
- 1949 アート・スチューデント・リーグで美術を、コロンビア大学で哲学を学ぶ
- 1958 コロンビア大学大学院に入学、美術史を学ぶ
- 1986 チナティ財団を設立し、非営利の公立美術館を開設
- 1994 マンハッタンにて逝去

主な個展・二人展

- 1963 「Donald Judd」 Green gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 1968 「Donald Judd」 Whitney Museum of American Art (ニューヨーク、アメリカ)
- 1971 「Donald Judd」 Pasadena Art Museum (パサデナ、アメリカ)
- 1975 「Donald Judd」 The National Gallery of Canada (オタワ、カナダ)
- 1978 「Donald Judd」 Nationalgalerie (ベルリン、ドイツ)
- 1981 「Donald Judd, Recent Sculpture」 Daniel Weinberg Gallery (サンフランシスコ、アメリカ)
- 1985 「Donald Judd: Skulpturen」 Annemarie Verna Galerie (チューリッヒ、スイス)
- 1989 「Donald Judd」 Dallas Museum of Art (ダラス、アメリカ)
- 1991 「Donald Judd」 Galerie Rolf Ricke (ケルン、ドイツ)

主なグループ展

- 1952 「WASHINGTON SQUARE OUTDOOR ART」 Washington Square (ニューヨーク)
- 1954 「National Print Exhibition: Eighth Annual」 Brooklyn Museum (ブルックリン、アメリカ)
- 1955 「Group Exhibition」 City Center Art Gallery (ニューヨーク、アメリカ)

- 1965 「Flavin, Judd, Morris, Williams」 Green gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 1967 「Primary Structures」 The Jewish Museum (ニューヨーク、アメリカ)
- 1970 「Preliminary Drawings」 The Museum of Modern Art, New York (ニューヨーク、アメリカ)
「Monumental Art」 The Contemporary Arts Center (シンシナティ、アメリカ)
- 1971 「Contemporary American Painting and Sculpture: Selections from the Collection of Mr. and Mrs. Eugene Schwartz」 Milwaukee Art Center (ミルウォーキー、アメリカ)
- 1972 「Flavin, Judd, Lichtenstein, Morris, Serra, Sonnier & Stella」
Leo Castelli Gallery, 4 East 77th Street (ニューヨーク、アメリカ)
- 1974 「Choice Dealers: Dealer's Choice」 The New York Cultural Center (ニューヨーク、アメリカ)
- 1976 「Drawing Now: 1955-1975」 The Museum of Modern Art, New York (ニューヨーク、アメリカ)
- 1982 「Robert Ryman, Cy Twombly, Brice Marden, Donald Judd, Sol LeWitt, Dan Flavin」
Larry Gagosian Gallery (ロサンゼルス、アメリカ)
- 1983 「Concepts in Construction, 1910-1980」 Teyler Museum (タイラー、アメリカ) 他
- 1992 「Surface to Surface」 Barbara Krakow Gallery (ボストン、アメリカ)
- 1994 「Abstract Painting and Sculpture Selections from the Permanent Collection」
Whitney Museum of American Art (ニューヨーク、アメリカ)

以上

ピエール・ジャンヌレ

1896年、スイスのジュネーヴに生まれる。ジュネーヴのエコール・デ・ボザールで建築を学んだのち、鉄筋コンクリート建築の先駆者であったオーギュスト・ペレのスタジオで働く。1922年、従兄弟のル・コルビュジエと共同で建築事務所を設立。のちに入所してきたシャルロット・ペリアンとともに3人で、LCシリーズに代表される家具デザインを手がける。第二次大戦中、政治的な思想の違いから事務所を離れるものの、1950年代にコルビュジエから再度請われ、インド北部の新都市、チャンディガールの都市計画に現地監督として参加。家具から建築、都市空間に至るまで総合的にデザインし、インドの近代建築の発展に貢献した。チェンティガールのプロジェクトにかかわる図面、写真、ドローイング、書簡などの膨大な関連資料は、現在カナダ建築センター（CCA）に保管されている。2000年代以降、ジャン・プルーヴェやシャルロット・ペリアンなどの、いわゆるフレンチ・モダニズムの建築家やエンジニアの家具が注目を集めるなかで、ピエール・ジャンヌレもまた再評価が進んでいる。

略歴

- 1896 スイス、ジュネーヴ生まれ
- 1913-21 ジュネーヴのエコール・デ・ボザールで建築を学ぶ *1916-18は兵役に従事
- 1922 ル・コルビュジエと建築事務所を設立
- 1951 インド北部の新都市、チャンディガールの都市計画に現地監督として参加
- 1967 死去 享年71

主な展覧会

- 2015 「Chandigarh : Pierre Jeanneret / Le Corbusier」
Jousse Entreprise, Contemporary Art (パリ、フランス)
- 2017 「gesture, form, technique IV」 TARO NASU GALLERY (東京)
- 2020 「PIERRE JEANNERET / LE CORBUSIER / CHARLOTTE PERRIAND」
Jousse Entreprise, Contemporary Art (パリ、フランス)
「gesture, form, technique V」 TARO NASU GALLERY (東京)

以上

二代 田辺 竹雲齋

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://chikuunsai.com/second/>

1910 年、大阪府堺市で初代竹雲齋の長男として生まれる。幼少の頃から竹芸をはじめ、21 歳で帝展に「播龍 図盆（ばんりゅうのずほうぼん）」を出品し初入選。以降、帝展、新文展、日展に連年入選を果たす。日展では審査員、評議員を務め、1952 年には特選・朝倉賞を受賞した。

27 歳の時、初代竹雲齋が他界し、二代竹雲齋を襲名。初代竹雲齋は唐物を得意とし、重厚な作品を制作したが、二代竹雲齋は独自の作品を生み出し、特に光と影がもたらす美しさが特徴の「透かし編み」は、その代表的な技法といえる。また一方で、鳳尾竹（ほうびちく）の煤竹（すすだけ）を用いた荒編みを得意とし、東京国立近代美術館工芸館所蔵の「飛雲」も、この技法で作られている。2000 年に他界。享年 89 歳。現在は孫にあたる四代が襲名している。

略歴

- 1910 大阪府堺市生まれ（本名：利雄）
- 1937 初代竹雲齋が他界、二代竹雲齋を襲名
- 2000 死去 享年 89 歳

主な個展

- 1970 「小竹と父子展」大阪高島屋（大阪）
- 1972 「竹雲齋竹芸三代展」大阪高島屋（大阪）
- 1976 「竹芸五十年記念 田辺竹雲齋展」大阪高島屋（大阪）

主なグループ展

- 1963-65 「日本現代工芸美術展」＊北米、中南米、欧州で開催
- 1985 「竹の工芸—近代における展開」東京国立近代美術館（東京）

主な受賞歴

- 1952 日展 特選・朝倉賞
- 1959 大阪府芸術賞
- 1979 日本新工芸展 内閣総理大臣賞
- 1981 勲四等瑞宝章
- 1983 紺綬褒章

以上

オスカー・ニーマイヤー

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.oscarniemeyer.org.br/>

1907 年、ブラジルのリオデジャネイロで生まれる。リオデジャネイロ国立芸術大学建築学部を卒業後、ルシオ・コスタとカルロス・レオンの設計事務所に勤務。旧教育保険省庁舎の設計に関わった際、ル・コルビュジエと知遇を得る。1952 年、コルビュジエらとともに、ニューヨークの国連本部ビルの設計に参加。1956 年、ジュセリーノ・クビチェック大統領から新首都の設計を依頼され、ルシオ・コスタ総合監修の下、主要建築物を設計する。ブラジルの政情不安から、1967 年パリに移住。1985 年の民政復帰後、ブラジルに戻って設計活動を再開し、ニテロイ現代美術館やオスカー・ニーマイヤー美術館など、104 歳で他界するまで精力的に創作を続けた。

略歴

- 1907 ブラジル、リオデジャネイロ生まれ
- 1934 リオデジャネイロ国立芸術大学建築学部卒業
- 1935 ルシオ・コスタとカルロス・レオンの設計事務所に勤務
- 1952 ル・コルビュジエらと共に国連本部ビル（ニューヨーク、アメリカ）の設計に参加
- 1957- ルシオ・コスタ総合監修の下、新首都ブラジリアの主要建築物を設計
- 2012 死去 享年 104

主な展覧会

- 1965 ルーブル美術館（パリ、フランス）
- 1997 「OSCAR NIEMEYER 1997 JAPAN」ギャラリー間（東京）
- 2015 「オスカー・ニーマイヤー展 ブラジルの世界遺産をつくった男」東京都現代美術館（東京）

主な受賞歴

- 1988 プリツカー賞
- 1989 アストゥリアス皇太子賞芸術部門
- 1998 RIBA ゴールドメダル
- 2004 高松宮殿下記念世界文化賞建築部門

以上

浜名 一憲

関連 URL ・ SNS 情報

Web: https://www.blumandpoe.com/artists/kazunori_hamana

Instagram: [@kazunorihamana](https://www.instagram.com/kazunorihamana)

1969 年、大阪府に生まれる。高校卒業後、自然農法を学ぶためにアメリカに留学。帰国後、フリーマーケットでヴィンテージデニムなどの古着を販売し、バイヤーとしての活動を始める。1994 年、原宿にスニーカーショップ「blues」を開店。90 年代のスニーカーブームの中で人気店となる。その後、移住した先の千葉県いすみ市で水揚げされるイワシを用い、古い魚醤技術を改良してアンチョビソース「セグロのクサレ」を開発。また、地元の公民館で行われる無料セミナーで作陶を学び、ほぼ独学で陶芸作品の制作を始め、東京、ロンドン、ロサンゼルス他、各都市で個展を開催。現在、千葉県を拠点に、作陶、農業、漁業を行う。

略歴

1969 大阪府生まれ
カリフォルニア州立ミラコスタ大学卒業

主な個展・二人展

2012 「壺展」プレイマウンテン（東京）
2013 dieci（大阪）
2014 「壺と海の漂着物」Hidari Zingaro（東京）
2018 「Kazunori Hamana & Joji Nakamura」CURATOR'S CUBE（東京）
2019 Blue Mountain School（ロンドン、英国）
2020 Pierre Marie Giraud（ブリュッセル、ベルギー）
「Kazunori Hamana, Ooido Shoujyou」Blum & Poe（東京）
2021 Blum & Poe Los Angeles（ロサンゼルス、アメリカ）

主なグループ展

2015 「Kazunori Hamana, Yuji Ueda, Otani Workshop」（Curated by Takashi Murakami）
Blum & Poe（ロサンゼルス、アメリカ）
2016 「Kazunori Hamana, Yuji Ueda, Otani Workshop」（Curated by Takashi Murakami）
Blum & Poe（ニューヨーク、アメリカ）
2020 「5,471miles」Blum & Poe Tokyo（東京）
2021 「白展」現代美術 艸居（京都）

以上

パブロ・ピカソ

関連 URL・SNS 情報

Web: <https://www.museepicassoparis.fr>
<https://museupicassobcn.cat>

1881 年、スペイン・アンダルシア地方のマラガに生まれる。美術教師の父のもと、幼少期から早熟な画才を発揮する。1899 年、バルセロナのカフェ「四匹の猫」に通い、気鋭の画家として頭角をあらわす。同店はカタルーニャ地方で興った文化芸術運動モデルニスモの中心地だった。1901 年以降、青を主調色とした絵画を描く。1904 年以降はパリに移住し、やがてジョルジュ・ブラックとともに「キュビズム」を創始して前衛芸術における主導的役割を果たす。1937 年、パリ万博のスペイン館で大壁画《ゲルニカ》を発表。戦後は南フランスに移り住み陶芸を始め、晩年まで旺盛な創作活動を続けた。1973 年死去。享年 91。20 世紀美術において最も偉大な画家の一人であり、その作品はパリとマラガにあるピカソ美術館のほか、世界各地の美術館に収蔵されている。

略歴

- 1881 スペイン、マラガ生まれ
- 1897 王立サン・フェルナンド美術アカデミー（マドリード、スペイン）に入学するも中退し、プラド美術館に通いベラスケスらの名画の模写をして絵画の道を求める
- 1900 パリに移住し、翌年個展を開く（「青の時代」のはじまり）
- 1907 キュビズムの記念碑的作品《アヴィニヨンの娘たち》を制作
- 1937 パリ万博のスペイン館で《ゲルニカ》を発表
- 1955 南フランスの陶芸の街、ヴァロリスに移り住む
- 1973 死去 享年 91

主な個展

- 1932 Galerie Georges Petit（パリ、フランス）
the Kunsthaus Zürich（チューリヒ、スイス）
- 1939 the Museum of Modern Art（ニューヨーク、アメリカ）
- 1955 the Musée des arts décoratifs（パリ、フランス）
- 1998 the Grand Gallery of the Louvre Museum（パリ、フランス）

以上

ジャデ・ファドジュティミ

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://jadefadojutimi.com>

<https://www.takaishiigallery.com/jp/archives/23001/>

Instagram: [@jadefadojutimi](https://www.instagram.com/jadefadojutimi)

1993年、ロンドンに生まれる。ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（RCA）の修了制作で Hine Painting Prize を受賞。2019年、史上最年少となる26歳でテート・コレクションに作品が収蔵され、2021年リバプール・ビエンナーレに参加。日本のアニメーションを愛好し、物語、音楽、ランドスケープ、ファッションなど、アニメーションの様々な要素が制作のインスピレーションとなっている。RCA 在学中には、交換留学生として京都に滞在した。2022年、第59回ヴェネチア・ビエンナーレのメイン会場で行われる展示「The Milk of Dreams」に参加。大英博物館、メトロポリタン美術館、パリ市立近代美術館、アムステルダム市立美術館、ロサンゼルス・カウンティ美術館ほか、欧米の主要な美術館に作品が収蔵されている。

略歴

- 1993 イギリス、ロンドン生まれ
- 2015 スレード美術学校（ロンドン、英国）美術学士取得
- 2017 ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（ロンドン、英国）美術学修士取得

主な個展

- 2017 「Heliophobia」 Pippy Houldsworth Gallery（ロンドン、英国）
- 2019 「She Squalls」 Galerie Gisela Capitain（ケルン、ドイツ）
「The Numbing Vibrancy of Characters in Play」 PEER（ロンドン、英国）
- 2020 「Gesture」 Pippy Houldsworth Gallery（ロンドン、英国）
- 2021 「Yet, Another Pathetic Fallacy」 ICA Miami（マイアミ、アメリカ）
- 2022 「Can we see the colour green because we have a name for it?」
The Hepworth Wakefield（ウェイクフィールド、英国）
「Memory in Translation」 タカ・イシイギャラリー（東京）

主なグループ展

- 2017 「Solidary & Solitary: The Joyner/Giuffrida Collection」
Ogden Museum of Southern Art（ニューオーリンズ、アメリカ）他巡回
- 2021 「The Stomach and the Port」 リバプール・ビエンナーレ（リバプール、英国）
「Walk Through British Art: Sixty Years」 Tate Britain（ロンドン、英国）
「Present Generations: Creating the Scantland Collection of the Columbus Museum of Art」
Columbus Museum of Art（コロンバス、アメリカ）

2022 第59回ヴェネチア・ビエンナーレ（ヴェネチア、イタリア）

主な受賞歴

2017 Hine Painting Prize

以上

ジャン・プルーヴェ

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://gagosian.com/artists/jean-prouve/>

1901 年、アール・ヌーヴォー全盛期のフランスで、ナンシー派の画家の父と音楽家の母のもとに生まれる。金属工芸家としてキャリアをスタートし、1931 年、アトリエ・ジャン・プルーヴェを開設。スチール等の新たな素材を用いた実験的かつ先進的な仕事へと転換し、家具から建築へと創造の領域を拡げる。大量生産を求める時代の要請に応え、公共機関や大学にむけた家具の工場生産、建築部材のプレファブリケーションに取り組んだプルーヴェは、みずからをコンストラクター（構築家）とみなし、多くの建築家とコラボレーションを行った。なかでもコルビュジエが設計した建物のために、シャルロット・ペリアン、ピエール・ジャンヌレと共同でデザインした一連の家具は、いわゆるフレンチ・モダニズムのマスターピースとして知られる。1971 年、ポンピドゥー・センターの国際設計コンペにおいて審査委員長を務め、リチャード・ロジャースとレンゾ・ピアノによる案を一等に選出した。生前より多くの建築家から称賛を集めていたが、2000 年代以降再評価が高まり、アートマーケットでもその作品が高値で落札されるなど、ふたたび注目を集めている。

略歴

- 1901 フランス、ナンシー生まれ
- 1931 アトリエ・ジャン・プルーヴェをナンシーに開設
- 1957-70 フランス国立工芸院で教壇に立つ
- 1984 死去 享年 83

主な展覧会

- 1990 「Jean Prouvé: Constructeur, 1901-1984」 ポンピドゥー・センター（パリ、フランス）
- 2002 「Jean Prouvé: Three Nomadic Structures」 コロンビア大学（ニューヨーク、アメリカ）
- 2004 「20 世紀デザインの異才 ジャン・プルーヴェ」 神奈川県立近代美術館 鎌倉（神奈川）
- 2005 「Jean Prouvé: Three Nomadic Structures」
ロサンゼルス現代美術館 パシフィックデザインセンター（ロサンゼルス、アメリカ）
- 2006 「Jean Prouvé: A Tropical House」 ハマー美術館（ロサンゼルス、アメリカ）
「Jean Prouvé: The Poetics of the Technical Object」
ヴィトラ・デザイン・ミュージアム（ヴァイル・アム・ライン、スイス）ほか国際巡回
- 2008 「Ateliers Jean Prouvé」 ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2013 「A Passion for Jean Prouvé: From Furniture to Architecture」
ピナコテカ・アネッリ（トリノ、イタリア）
- 2017 「Jean Prouvé : Architect for Better Days」 リュマ財団（アルル、フランス）
- 2022 「ジャン・プルーヴェ展 椅子から建築まで」 東京都現代美術館（東京）

以上

セクンディノ・ヘルナンデス

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.victoria-miro.com/artists/184-secundino-herndez/>

1975 年、スペインのマドリードに生まれる。アクション・ペインティングを想起させる身体性、カートゥーンのような省略された形状など、美術史に関する深い知識をベースに、多様なスタイルを組み合わせた絵画を制作。チューブから直接描いたり、時には高圧洗浄機を用いるなど、独自の技法を駆使して美と破壊の間の緊張感を生み出している。ウェールズ国立博物館（英国）、ルーベル・ファミリー・コレクション（アメリカ）、パティオ・エレリアーノ・スペイン現代美術館など、その作品は数多くのパブリック/プライベートコレクションに収められている。

略歴

- 1975 スペイン、マドリード生まれ
- 2000 Complutense University of Madrid（マドリード、スペイン）美術学士取得

主な個展

- 2002 Galería Espacio F（マドリード、スペイン）
Centro de Arte Joven de la Comunidad de Madrid（マドリード、スペイン）
- 2003 Galería Luis Adelantado（バレンシア、スペイン）
- 2005 Galería Casaborne, Antequera（マラガ、スペイン）
- 2006 「Andiamo!」Castello di Sermoneta（ラティーナ、イタリア）
「Hauch!」Galería Heinrich Ehrhardt（マドリード、スペイン）
- 2007 「Luna Roja」Galería María Llanos（カセレス、スペイン）
「Secundino Hernández」Krinzinger Projekte（ウィーン、オーストリア）
- 2008 Galería Casaborne, Antequera（マラガ、スペイン）
「Una era tu madre」Art Cologne, Galería Heinrich Ehrhardt（ケルン、ドイツ）
- 2009 「Secundino Hernández,」Galería María Llanos（カセレス、スペイン）
「La tierra es redonda」Galería Heinrich Ehrhardt（マドリード、スペイン）
- 2010 「Indigenismo」Galerie Krinzinger（ウィーン、オーストリア）
「Secundino Hernández」Galerie Forsblom（ヘルシンキ、フィンランド）
- 2011 「Raw, Mid Raw」Galeria Nuno Centeno（ポルト、ポルトガル）
「Gracias por girar」Galería Heinrich Ehrhardt（マドリード、スペイン）
- 2012 Mendes Wood Gallery（サンパウロ、ブラジル）
- 2013 「Secundino Hernández」Salon Dahlmann（ベルリン、ドイツ）
「Lupis Ipsum」Galería Heinrich Ehrhardt（マドリード、スペイン）
「Metallgedärm」Galerie Bärbel Grässlin（フランクフルト、ドイツ）

- 2014 「Lupis Ipsum」 Salon Dahlmann (book presentation and exhibition) (ベルリン、ドイツ)
 「Four Seasons between Winter and Spring」 Galerie Krinzinger (ウィーン、オーストリア)
 「Kisses & Kisses」 Galerie Forsblom (ヘルシンキ、フィンランド)
 「Mi Primera corrida」 Galería Heinrich Ehrhardt (マドリード、スペイン)
 「Secundino Hernández」 Victoria Miro (ロンドン、英国)
 「Secundino Hernández. Works from the Miettinen Collection」
 Maison Louis Carré (バゾッシュ=シュル=ギヨンヌ、フランス)
- 2015 「TODAY」 Galerie Krinzinger (ウィーン、オーストリア)
 「También」 Galería Heinrich Ehrhardt (マドリード、スペイン)
 「Done Well Done」 Múrias Centeno (リスボン、ポルトガル)
 「Entre Primavera y Verano」 Yuz Museum (上海、中国)
- 2016 「Polvorossa」 H2-Zentrum für Gegenwartskunst im Glaspalast (アウクスブルグ、ドイツ)
 「Polvareda」 Galerie Bärbel Grässlin (フランクフルト、ドイツ)
 「Pintura」 Galería Heinrich Ehrhardt (マドリード、スペイン)
- 2017 「In October Ecstasy」 Galerie Forsblom (ストックホルム、スウェーデン)
 「Paso」 Victoria Miro Gallery (ロンドン、英国)
- 2018 「Secundino Hernández」 Taidehalli Helsinki (ヘルシンキ、フィンランド)
 「Todo Es Mucho」 CAC (マラガ、スペイン)
 「New Paintings」 Galerie Bärbel Grässlin (フランクフルト、ドイツ)
- 2019 「Lowry I. Lowry II. Lowry III. Foresta Negra. Park Life (Forest). Relieves 1-10」
 Galería Heinrich Ehrhardt (マドリード、スペイン)
 「Grapado a la piel」 Victoria Miro (ベニス、イタリア)
- 2020 「One more time is good enough」 Galerie Krinzinger (ウィーン、オーストリア)
- 2021 「Secundino Hernández」 Galerie Bärbel Grässlin (フランクフルト、ドイツ)
 「Uno a uno」 Insular Museum, Cabildo of La Palma (ラ・パルマ島、スペイン)
- 2022 「Works from the Miettinen Collection」 Salon Dahlmann (ベルリン、ドイツ)
 「Secundino Hernández」 Nuno Centeno Gallery (ポルト、ポルトガル)
 「time TIME」 Victoria Miro (ロンドン、英国)
- 2023 「ANTICIPADO」 Galerie Bärbel Grässlin (フランクフルト、ドイツ)

主なグループ展

- 2013 「Alone Together」
 Rubell Family Collection / Contemporary Arts Foundation (マイアミ、アメリカ)
- 2017 「THE ART SHOW —タグチ・アートコレクションにみるミレニアムの美術」群馬県立美術館(群馬)
- 2018 「EuroVisions: Contemporary Art from the Goldberg Collection」
 CMGA - Canberra Museum and Gallery (キャンベラ、オーストラリア)
- 2019 「球体のパレット～タグチ・アートコレクション～」
 北海道立帯広美術館(北海道)、北海道立釧路芸術館(北海道)、北海道立函館美術館(北海道)

主な受賞歴

- 2003 「Premio Joven 2003」 Fundación General de la Universidad Complutense de Madrid (スペイン)
- 2004 「Generación 2004 de Caja Madrid」 (スペイン)
- 2007 「Generación 2007 de Caja Madrid」 (スペイン)
- 2008 「Creación artística de la Comunidad de Madrid, Spain Prize- New Talents Program」
Art Cologne (ドイツ)

以上

シャルロット・ペリアン

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.cassina-ixc.jp/shop/r/r221006/>

1903 年、服飾職人の両親のもと、パリに生まれる。1927 年のサロン・ドートンヌに出展した「屋根裏のバー」のインテリアデザインが認められ、ル・コルビュジェのアトリエに入所。LC シリーズに代表される、鉄、アルミニウム、ガラスなどの新素材を用いた家具をデザインする。1940 年頃、商工省の招聘により、輸出工芸指導のため来日。柳宗悦や河井寛次郎など「民藝運動」のメンバーや、柳宗理、剣持勇ら日本のプロダクトデザイナーと交流し、竹製のシェーズ・ロングほか日本の伝統的な手工芸を応用した家具を発表。1950 年代、ジャン・プルーヴェと共同で、コルビュジェが設計したユニテ・ダビダシオンやブラジル学生会館の家具をデザインする。1999 年、96 歳で他界。いま再びその作品が注目され、2019 年にパリのフォンダシオン・ルイ・ヴィトンで大回顧展が開催されたほか、22 年には、その名を冠した建築賞「Charlotte Perriand award」が創設された。

略歴

- 1903 フランス、パリ生まれ
- 1921-25 エコール UCAD（装飾美術連合学校）でインテリアデザインを学ぶ
- 1927 ル・コルビュジェのアトリエに入所
- 1941-42 商工省から招聘され輸出工芸指導のため日本に滞在
高島屋で「選択・伝統・創造」展（1941）を開催
- 1953-55 2 度目の日本滞在
高島屋で「芸術の総合への提案 コルビュジェ、レジェ、ペリアン 3 人展」（1955）を開催
- 1999 死去 享年 96

主な個展

- 1941 「選択・伝統・創造」高島屋（東京、大阪）
- 1955 「芸術の総合への提案 コルビュジェ、レジェ、ペリアン 3 人展」高島屋（東京）
- 1985 「Charlotte Perriand Un Art de Vivre」パリ装飾美術館（パリ、フランス）
- 1996 「Charlotte Perriand: The Modern Life」デザインミュージアム（ロンドン、英国）
- 1998 「シャルロット・ペリアン展 20 世紀インテリアデザインのパイオニア」
リンピングデザインセンター OZONE（東京）
- 2011 「シャルロット・ペリアンと日本展」神奈川県立近代美術館（神奈川）ほか巡回
- 2019 「Le Monde Nouveau de Charlotte Perriand」ファンダシオン・ルイ・ヴィトン（パリ、フランス）

主な受賞歴

1983 レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ

以上

三島 喜美代

関連 URL ・ SNS 情報

Web: http://gallery-sokyo.jp/atsumi/k_mishima/

1932 年、大阪府に生まれる。芦屋市の洋画家・伊藤継郎のアトリエに通い、1954 年から独立美術展に油彩画を出品。具体美術協会の吉原治良に師事した画家・三島茂司（のちに結婚）との出会いをきっかけに、60 年代からはコラージュによる実験的な平面作品を制作。1970 年代に入ると陶に新聞紙や広告ビラをシルクスクリーンで転写した作品を発表。高度経済成長期に増え続ける「ゴミ」や、氾濫する情報に埋もれる恐怖から生み出された斬新な作品は、海外での日本現代陶芸展で注目を集める。1986～87 年、ロックフェラー財団の奨学金によりニューヨークに滞在。帰国後は大阪の十三と岐阜県土岐市の 2 ヶ所を拠点に活動。主なパブリックコレクションに、京都国立近代美術館、国立国際美術館、森美術館、M+（香港）、ボストン美術館（ボストン）、大英博物館（ロンドン）、ポンピドゥ・センター（パリ）、パリ市立近代美術館（パリ）など。

略歴

- 1932 大阪府生まれ
- 1951 大阪市立扇町高等学校卒業
- 1986-87 ロックフェラー財団奨学金でニューヨークへ留学

主な個展

- 1964 画廊あ の（大阪）
- 1974 南画廊（東京）
- 1988 ギャラリー16（京都）
- 1990 INAX ギャラリー2（東京） / INAX ギャラリー（大阪）
- 1992 カサハラ画廊（大阪）
- 2001 村松画廊（東京）
- 2004 伊勢現代美術館（三重）
- 2017 艸居（京都）
- 2020 「第 4 回コレクション展：特集 三島喜美代」京都国立近代美術館（京都）
- 2021 艸居アネックス（京都） / SOKYO ATSUMI（東京）
- 2023 艸居（京都）

主なグループ展

- 1964 「現代美術の動向—絵画と彫塑」展 国立近代美術館京都分館（京都）
- 1980 「まがいものの光景・現代美術とユーモア展」国立国際美術館（大阪）
- 1998 「現代日本の陶芸」エヴァーソン美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2003 「大地の芸術—クレイワーク新世紀展」国立国際美術館（大阪）

- 2005 「日本の現代陶芸」展 ポストン美術館（ポストン、アメリカ）
- 2006 「現実—陶芸のおける現実」岐阜陶芸美術館（岐阜）
- 2009 「25人の日本の現代陶芸家」フランス国立陶磁器美術館（パリ、フランス）
- 2011 「Soaring Voices: Contemporary Japanese Woman Ceramic Artists」展
ハーン美術館（フロリダ、アメリカ）
- 2019 「CONTACT つなぐ・むすぶ 日本と世界のアート展」清水寺（京都）
「Manga/ マンガ」大英博物館（ロンドン、英国）
- 2021 「The Flames. The Age of Ceramics」パリ市立近代美術館（パリ、フランス）
「アナザーエナジー展：挑戦しつづける力—世界の女性アーティスト16人」森美術館（東京）
「MOT コレクション Journals 日々、記す vol.2」東京都現代美術館（東京）
- 2021-22 「The 10th Asia Pacific Triennial of Contemporary Art (APT10)」
（クイーンズランド、オーストラリア）
- 2022 「ポーラ美術館開館20周年記念展 モネからリヒターへ — 新収蔵作品を中心に」
ポーラ美術館（神奈川）

主な受賞歴

- 1965 「第9回シェル美術賞」
- 1974 「ファエンツァ国際陶芸展」金賞
- 1975 「第11回現代日本美術展」佳作
- 1988 「日本現代陶芸展」金賞
- 2019 「SARDI PER L'ARTE BACK TO THE FUTURE PRIZE」（トリノ、イタリア）
- 2019 「第5回安藤忠雄文化財団賞」
- 2021 令和3年度文化庁長官表彰
- 2022 第63回毎日芸術賞
令和3年度日本陶磁協会賞金賞
第11回円空賞（岐阜）

以上

オスカー・ムリーリョ

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.takaishiigallery.com/jp/archives/26322/>

1986 年、南米コロンビアのラ・パイラに生まれる。幼少期に家族でロンドンに移住し、ウエストミンスター大学で美術学士、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートで美術学修士を取得。世界各地を巡って制作活動を行い、絵画、ドローイング、版画、彫刻、映像、インスタレーション、共同プロジェクトなど、多岐にわたる手法で作品を発表している。主なパブリックコレクションに MoMA（ニューヨーク）、MOCA（ロサンゼルス）、プラダ財団（ミラノ）、ルートヴィヒ美術館（ケルン）など。2019 年のターナー賞では、最終候補となった他 3 名のアーティストとともにコレクティブを形成し、共同受賞した。

略歴

- 1986 コロンビア、ラ・パイラ生まれ
- 2007 ウェストミンスター大学（ロンドン、英国）美術名誉学士取得
- 2012 ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（ロンドン、英国）美術学修士取得

主な個展・二人展

- 2012 「work」 Rubell Museum（マイアミ、アメリカ）
- 2016 Yarat Contemporary Art Centre（バクー、アゼルバイジャン）
- 2017 「Capsule 07: Oscar Murillo」 Haus der Kunst（ミュンヘン、ドイツ）
- 2019 「Oscar Murillo | Zhang Enli」 chi K11 art museum（上海、中国）
- 「Violent Amnesia」 Kettle's Yard（ケンブリッジ、英国）
- 「Horizontal Darkness in Search of Solidarity」 Kunstverein Hamburg（ハンブルグ、ドイツ）
- 「Social Altitude」 Aspen Art Museum（アスペン、アメリカ）
- 2021 「MAM プロジェクト 029: オスカー・ムリーリョ」 森美術館（東京）

主なグループ展

- 2014 「The Forever Now: Contemporary Painting in an Atemporal World」
MoMA（ニューヨーク、アメリカ）
- 2015 第 56 回ヴェネチア・ビエンナーレ（ヴェネチア、イタリア）
- 2016 第 3 回あいちトリエンナーレ（愛知）
- 2017 シャルジャ・ビエンナーレ 13（シャルジャ、UAE）
- 2018 第 10 回ベルリン・ビエンナーレ（ベルリン、ドイツ）
- 2021 「"Carte blanche" to Anne Imhof, Natures Mortes」 Palais de Tokyo（パリ、フランス）

主な受賞歴

2019 ターナー賞 *ローレンス・アブ・ハムダン、ヘレン・カモック、タイ・シャニとの共同受賞

以上

元永 定正

1922年、三重県に生まれる。地元の商業学校を卒業後、職を転々としながら漫画家を志し、洋画家・濱邊萬吉に師事して絵の道を歩みはじめる。1952年、神戸に移り住み、芦屋市展で抽象画と出会う。1955年、同展に出品した作品《寶がある》が吉原治良の目に留まり、「具体美術協会」に参加。六甲山系の夜景を抽象化した油彩、水の性質や重力を利用した大型立体作品や、煙を用いたパフォーマンスを発表する。とりわけ日本画の「たらし込み」に着想を得て、絵具の流動性や色彩の浸食作用を活かした抽象絵画は、折から世界を席卷していたアンフォルメルとも呼応して注目を集める。1966～67年のニューヨーク滞在を経て、エアブラシとアクリル絵具を用いた新境地を開拓。「ファニー・アート」と呼ばれる独自の世界を確立した。70年代以降は絵本を数多く手がけ、幅広い分野で創作活動を展開した。2011年に他界。享年88。

略歴

- 1922 三重県生まれ
- 1938 三重県上野商業学校（現・三重県立伊賀白鳳高校）卒業
- 1955 具体美術協会に参加
- 1993-2004 成安造形大学造形学部造形美術科教授
- 2011 死去 享年88

主な個展・二人展

- 1961 東京画廊（東京）1963年も開催
マーサ・ジャクソン画廊（ニューヨーク、アメリカ）
- 1980 「現代の作家2—高松次郎・元永定正展」国立国際美術館（大阪）
- 1984 「元永定正・白髪一雄展」和歌山県立近代美術館（和歌山）
- 1991 「元永定正展」三重県立美術館（三重）
- 2002 「元永定正展」西宮市大谷記念美術館（兵庫）
- 2003 「元永定正展 いろかたちながれあふれててんらんかい」広島市現代美術館（広島）
- 2005 「元永定正展」長野県信濃美術館（長野）
- 2006 「元永定正の創作の世界展」練馬区立美術館（東京）
- 2007 「もーやんえっちゃんえほんのえ展」伊丹市立美術館（兵庫）
- 2009 「元永定正展—いろ いきてる！」損保ジャパン東郷青児美術（東京）
「元永定正展 MOTONAGA SADAMASA」三重県立美術館（三重）
- 2015 「Between Action and The Unknown: The Art of Kuzuo Shiraga and Sadamasa Motonaga」
ダラス美術館（ダラス、アメリカ）
- 2022 「生誕100年 元永定正—伊賀上野から神戸、そしてニューヨークへ」兵庫県立美術館（兵庫）
「生誕100年 元永定正展」三重県立美術館（三重）

主なグループ展

- 1955 「第1回具体美術展」小原会館（東京）第1回～最終展まで全展に出品
- 1959 「アルテ・ノーヴァー新しい絵画」パラッツォ・グラネリ（トリノ、イタリア）
- 1963 「現代絵画の動向—西洋と日本」国立近代美術館京都分館（京都）
- 1965 「ヌル国際展」ステデリック美術館（アムステルダム、オランダ）
- 1971 「第10回現代日本美術展」東京都美術館（東京）ほか
- 1972 「現代美術の鳥瞰」京都国立近代美術館（京都）
- 1986 「前衛の日本」ポンピドゥ・センター（パリ、フランス）
- 1993 第45回ヴェネチア・ビエンナーレ（ヴェネチア、イタリア）
- 1999 「Gutai」ジュ・ド・ポーム国立美術館（パリ、フランス）
- 2013 「splendid playground」グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2022 「すべての未知の世界へ—GUTAI 分化と統合」大阪中之島美術館・国立国際美術館（大阪）

主な受賞歴

- 1964 第6回現代日本美術展優秀賞
- 1966 第7回現代日本美術展優秀賞
- 1983 第2回芸術文化振興協会賞
第15回日本芸術大賞
- 1986 兵庫県文化賞
- 1988 フランス政府より芸術文芸シュバリエ章
- 1991 紫綬褒章
- 1992 大阪芸術賞
- 1997 勲四等旭日小綬章
- 2002 三重県民功労賞文化賞

以上

山口 歴

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <http://www.meguruyamaguchi.com>

Instagram: [@meguruyamaguchi](https://www.instagram.com/meguruyamaguchi)

1984 年、東京に生まれる。2007 年、23 歳の時に単身渡米、ニューヨーク在住の現代美術家、松山智一のスタジオでアシスタントとして働く。2011 年、東京の AISHO MIURA ARTS で開催されたグループ展に参加、出品作 8 点が初日で完売する。代表作の「OUT OF BOUNDS」シリーズでは、絵具のストロークだけが空間に浮いているような、独自の技法とスタイルで注目を集める。ファッションの分野でのコラボレーションも多く、NIKE、UNIQLO、ISSEI MIYAKE など、ジャンルをクロスオーバーして多方面で活躍している。

略歴

- 1984 東京都生まれ
- 2007 渡米
- 現在、ニューヨークを拠点に活動

主な個展

- 2006 「SHROOM HEADZ EXHIBITION」 LEVI'S Arcuate (東京)
- 2009 「THE GOLDEN AGE OF REGERMINATION」 Mangiami (ニューヨーク、アメリカ)
- 2015 「ALL IS FLUX, NOTHING STAYS STILL」 +81 gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2016 「UNKNOWN SCORCHER」 HHH Gallery (東京)
- 「SELL MY SOUL」 SAISONART GALLERY (東京)
- 2017 「OUT OF BOUNDS」 ELTTOB TEP ISSEY MIYAKE (東京)
- 「イメージの力」 QUIET NOISE (東京)
- 「SPLITTING HORIZON」 Basement GINZA (東京)

主なグループ展

- 2008 「THE ART MARKET PART 2」 Destination (ニューヨーク、アメリカ)
- 2010 「AIR EXHIBITION」 SPACE WOMB Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2011 「GROUPSHOW3」 AISHO MIURA ARTS (東京)
- 2012 「ART SHOW IN NYU BUSINESS SCHOOL」
New York University Stern school of business (ニューヨーク、アメリカ)
- 「POST DPI」 Kaikaikiki Gallery HIDARI ZINGARO (東京)
- 2013 「CITY DRIFT」 Bogart Salon (ニューヨーク、アメリカ)
- 「ART OF JOMON」 hpgr GALLERY (ニューヨーク、アメリカ)
- 「MONSTER」 ANNEX SPACE (ニューヨーク、アメリカ)

- 「WAH BRIDGE」 Bushwick (ニューヨーク、アメリカ)
- 2014 「HUMAN MACHINERY」 +81 gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 「NEW PAINTING EXHIBITION - MEGURU YAMAGUCHI & CHRISSY ANGLIKER」
KINFOLK 94 (ニューヨーク、アメリカ)
- 2016 「QUEST」 hpgrpgallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2017 「STAY GOLD」 UNION SODA (福岡)
- 2018 「Kinetic」 KINFOLK90 (ニューヨーク、アメリカ)
- 「Untainted Abstraction」 GR gallery (ニューヨーク、アメリカ)

以上

リー・キット

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://shugoarts.com/artist/55/>

1978 年、香港に生まれる。絵画や映像、ファウンド・オブジェクトを組み合わせたインスタレーションを制作。自身を取り巻く環境や個人的な経験に根ざした作品は、しばしば同時代の社会的・政治的状况を観客に想起させる。台湾を拠点にして、これまでアジア、アメリカ、ヨーロッパ各地で滞在制作を行い、サイトスペシフィックな作品を発表してきた。2013 年にはヴェネチア・ビエンナーレに香港代表として参加。同年、第 1 回ヒューゴ・ボス・アジア・アート賞にノミネートされた。主なパブリックコレクションにポンピドー・センター（パリ）、M+（香港）、テート・モダン（ロンドン）、ウォーカー・アート・センター（ミネアポリス）など。

略歴

- 1978 香港生まれ
- 2008 香港中文大学 美術学修士取得

主な個展・二人展

- 2008 「(Ready-made) Everyday」 Enjoy Public Art Gallery（ウエリントン、ニュージーランド）
「Remains from several days」 Mori Gallery（シドニー、オーストラリア）
- 2009 「Suit-case」 Galleria Dell' Arco（パレルモ、イタリア）
「Someone Singing and Calling our Name.」 Osage Soho（香港、中国）
- 2010 「Well, that's just a chill.」 シュウゴアーツ（東京）
- 2011 「Watching Soap (I can't recall the day that I last heard from you)」 Osage Gallery（香港、中国）
「1, 2, 3, 4…」 Lombard Freid Projects（ニューヨーク、アメリカ）
「Henry. (Have you ever been this low?)」 Western Front（バンクーバー、カナダ）
- 2012 「Every breath you take.」 Min Sheng Art Museum（上海、中国）
「Can you puff that sound away?」 Chi-wen Gallery（台北、台湾）
「House M」 The Pavilion（北京、中国）
「It's not an easy thing.」 Arrow Factory（北京、中国）
「How to set up an apartment for Johnny.」 Osage Gallery（香港、中国）
- 2013 「Not Swinging」 Project Fulfill Art Space（台北、台湾）
「You (you).」 第 55 回ヴェネチア・ビエンナーレ（ヴェネチア、イタリア）
- 2014 「By the way」 シュウゴアーツ（東京）
「How are things on the West Coast?」 Lombard Freid Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
「When (Not) to Let Go」 Residency and project at Taipei Contemporary Art Centre（台湾）
「And」 AIKE（上海、中国）
- 2015 「At」 Project Fulfill（台北、台湾）

- 「Please wait.」 Mother's Tankstation (ダブリン、アイルランド)
「The voice behind me」 資生堂ギャラリー (東京)
「Faithless」 Observation Society (広州、中国)
「We'll never go back again」 Mirrored Garden, Guangzhou, China
2016 「He Knows Me」 Massimo de Carlo (ロンドン、英国)
「Everyday Hypothesis」 TKG+ (台北、台湾)
「Hold your breath, dance slowly」 The Walker Art Centre (ミネアポリス、アメリカ)
「A small sound in your head」 S.M.A.K (アントワープ、ベルギー)
「Skin」 Jane Lombard Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
「I've been doing some thinking over these last few days」 AIKE (上海、中国)
2017 「The more I ignore you, the closer you get」 The Cube Project Space (台北、台湾)
「Not untitled」 シュウゴアーツ (東京)
「Something you can't leave behind」 Massimo de Carlo (香港、中国)
2018 「The Enormous Space」 OCAT Shenzhen (深圳、中国)
「Banal」 Mother's Tankstation (ダブリン、アイルランド)
「僕らはもっと繊細だった。」 原美術館 (東京)
「Linger on, your lit-up shade」 Casa Masaccio (トスカーナ、イタリア)
「I didn't know that I was dead」 OCAT (深圳、中国)
2019 「Resonance of a sad smile」 Art Sonje Center (ソウル、韓国)
「Techno」 TKG+ (台北、台湾)
2020 「The gazing eyes won't lie」 Massimo de Carlo (香港、中国)
「(Screenshot)」 シュウゴアーツ (東京)
2021 「Today is the Past of Tomorrow」 Oi! (香港、中国)
「Lovers on the Beach」 West Den Haag (デン・ハーグ、オランダ)
2023 「The Last Piece of Cloud」 TKG+ (台北、台湾)
リー・キット個展 11月開催予定 シュウゴアーツ (東京)

主なグループ展

- 2013 「Hugo Boss Asia Art 2013」 Rockbund Art Museum (上海、中国)
2015 「被爆70周年 ヒロシマを見つめる三部作／ふぞろいなハーモニー」 広島市現代美術館 (広島)
「Sharjah Biennial」 (シャルジャ、アラブ首長国連邦)
「The Great Ephemeral」 New Museum (ニューヨーク、アメリカ)
2017 「All Watched Over by Machines of Loving Grace」 Palais de Tokyo (パリ、フランス)
「Kathmandu International Festival」 (カトマンズ、ネパール)
「The Other Face of the Moon」 Asia Culture Center (光州広域市、韓国)
2019 「Lyon Biennial」 (リヨン、フランス)
「Honolulu Biennial」 (ハワイ、アメリカ)

以上

ゲルハルト・リヒター

関連 URL・SNS 情報

Web: <https://gerhard-richter.com/en>

1932年、ドイツのドレスデンに生まれる。ドレスデン芸術アカデミー卒業後の1961年、ベルリンの壁が建設される直前に旧西ドイツに移住し、デュッセルドルフ芸術アカデミーへ入学。コンラート・フィッシャーやジグマー・ポルケらと「資本主義リアリズム」と呼ばれる運動を展開し、独自の表現で注目を集める。「フォト・ペインティング」や「カラーチャート」、「グレイ・ペインティング」、「アブストラクト・ペインティング」など、様々なスタイルによってイメージの成立条件を問い直す作品を発表し、「ドイツ最高峰の画家」と称される。

これまでにポンピドゥー・センター、テート・ギャラリー、ニューヨーク近代美術館、テート・モダンなど、世界の名だたる美術館で個展を開催。2022-23年、東京国立近代美術館と豊田市美術館で個展が開催され話題を呼んだ。

現在、ドイツのケルンを拠点に創作活動を続けている。

略歴

- 1932 ドイツ、ドレスデン生まれ
- 1951-57 Hochschule für Bildende Künste Dresden（ドレスデン芸術アカデミー）でフリーペインティングと壁画を学ぶ
- 1961-64 Kunstakademie Düsseldorf（デュッセルドルフ美術アカデミー）でカール・オットー・ゲッツのもとで学ぶ

主な個展

- 1964 「Gerd Richter: Photo Paintings, Portraits and Families」
Galerie Friedrich & Dahlem（ミュンヘン、ドイツ）
「Gerhard Richter」 Galerie Schmela（デュッセルドルフ、ドイツ）
- 1972 「Gerhard Richter: Atlas of the Photographs and Sketches」
Hedendaagse Kunst（ユトレヒト、オランダ）
- 1973 「Gerhard Richter: Atlas of Photographs and Sketches (Information 5)」
Kunsthalle Bremerhaven（ブレマーハーフェン、ドイツ）
- 1977 「Gerhard Richter」 Musée National d'Art Moderne, Centre Georges Pompidou（パリ、フランス）
- 1986 「Gerhard Richter: Paintings 1962-1985」
Städtische Kunsthalle Düsseldorf（デュッセルドルフ、ドイツ）、
Staatliche Museen zu Berlin（ベルリン、ドイツ）、Kunsthalle Bern（ベルン、スイス）、
Museum moderner Kunst（ウィーン、オーストリア）
- 1988-89 「Gerhard Richter: Paintings」 Art Gallery of Ontario（トロント、カナダ）、

- Museum of Contemporary Art Chicago (シカゴ、アメリカ)、
Hirshhorn Museum and Sculpture Garden (ワシントン、アメリカ)、
San Francisco Museum of Modern Art (サンフランシスコ、アメリカ)
- 1991 「Gerhard Richter」 Tate Gallery (ロンドン、英国)
- 1993-94 「Gerhard Richter: Painting 1962-1993」
Musée d'art moderne de la Ville de Paris (パリ、フランス)、
Kunst- und Ausstellungshalle der Bundesrepublik Deutschland (ボン、ドイツ)、
Moderna Museet (ストックホルム、スウェーデン)
- 1994 「Gerhard Richter」 Museo Nacional Centro de Arte Reina Sofía (マドリード、スペイン)
- 2002 「Gerhard Richter: 40 Years of Painting」
The Museum of Modern Art (ニューヨーク、アメリカ)
- 2005 「Gerhard Richter」 K20, Kunstsammlung Nordrhein-Westfalen (デュッセルドルフ・ドイツ)
「Gerhard Richter: Painting as Mirror」 21世紀美術館 (金沢)、DIC川村記念美術館 (千葉)
- 2011 「Gerhard Richter: Panorama」 Tate Modern (ロンドン、英国)
- 2014 「Gerhard Richter: Pictures / Series」 Fondation Beyeler (リーエン、スイス)
- 2020 「Gerhard Richter: Painting After All」 The Metropolitan Museum of Art (ニューヨーク、アメリカ)
- 2022-23 「ゲルハルト・リヒター」 東京国立近代美術館 (東京)、豊田市美術館 (愛知)

主なグループ展

- 1969 「9 Young Artists」 The Solomon R. Guggenheim Museum (ニューヨーク、アメリカ)
「現代世界美術展 西と東の対話」 東京国立近代美術館 (東京)
- 1972 36th Venice Biennial (ヴェネチア、イタリア)
Documenta 5 (カッセル、ドイツ) *以後、77・82・92・97年に参加
- 1981 「A New Spirit in Painting」 Royal Academy of Arts (ロンドン、英国)

受賞歴多数

以上

スターリング・ルビー

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.takaishiigallery.com/jp/archives/4952/>

1972 年、ドイツのビットブルクに生まれる。ポリウレタンやブロンズを用いた立体から、ドローイングやコラージュ、陶器、油彩画、写真、映像、さらにはキルトや衣服にいたるまで、幅広い素材・技法を駆使した多様な形態の作品を制作。社会のなかの暴力や圧力、美術史に関わる問題を扱った作品も多い。ファッションの分野でも注目を集め、ラフ・シモンズの 2014~15 年秋冬コレクションでコラボレーションしたほか、17 年にリニューアルしたカルバン・クラインの旗艦店の内装や、同ブランドの本社ショールームも手がけている。ニューヨーク近代美術館、グッゲンハイム美術館、テート・モダン、ポンピドゥー・センターなど、欧米の主要な美術館に作品が収蔵されている。現在、ロサンゼルスを拠点に活動中。

略歴

- 1972 ドイツ、ビットブルク生まれ
- 1996 Pennsylvania School of Art & Design (ランカスター、アメリカ) 卒業
- 2002 The School of the Art Institute of Chicago (シカゴ、アメリカ) 美術学士取得
- 2005 Art Center College of Design (パサデナ、アメリカ) 美術学修士取得

主な個展

- 2008 「CHRON」 The Drawing Center (ニューヨーク、アメリカ)
「SUPERMAX 2008」 Museum of Contemporary Art (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2012 「SOFT WORK」 FRAC Champagne-Ardenne (ランス、フランス) ほか巡回
- 2013 「CHRON II」 Fondazione MEMMO (ローマ、イタリア) ほか巡回
「Droppa Blocka」 Museum Dhondt-Dhaenens (アントワープ、ベルギー)
- 2014 「BC RIPS」 タカ・イシイギャラリー (東京)
- 2016 「Sterling Ruby, Winterpalais」 Belvedere Museum (ウィーン、オーストリア)
- 2018 「VERT」 タカ・イシイギャラリー (東京)
「Sterling Ruby: Ceramics」 Museum of Arts and Design (ニューヨーク、アメリカ) ほか巡回
- 2019 「Sterling Ruby: Sculpture」 Nasher Sculpture Center (ダラス、アメリカ)

主なグループ展

- 2010 瀬戸内国際芸術祭 (香川)
「Aftermath」 タカ・イシイギャラリー 京都 (京都)
- 2013 「アートがあれば II」 東京オペラシティアートギャラリー (東京)
- 2014 「ホイットニー・ビエンナーレ 2014」 ホイットニー美術館 (ニューヨーク、アメリカ)
「第 10 回光州ビエンナーレ」 (光州、韓国)

- 「台北ビエンナーレ 2014」(台北、台湾)
- 2016 「Inaugural Exhibition: MOVED」タカ・イシイギャラリー (東京)
- 2017 「Christian Dior, Couturier Du Rêve」
Musée des Arts Décoratifs, Palais du Louvre (パリ、フランス) ほか巡回
- 2019 「抽象世界」国立国際美術館 (大阪)
「Survived!」タカ・イシイギャラリー (東京)
- 2020 「The World: From The OKETA COLLECTION」金沢 21 世紀美術館 (石川)
- 2021 「I CARE BECAUSE YOU DO」The Mass (東京)
「YAKIMONO」タカ・イシイギャラリー (東京)
- 2022 「In America: An Anthology of Fashion」メトロポリタン美術館 (ニューヨーク、アメリカ)

主な受賞歴

- 2017 「MAD Ball Annual Visionaries! Awards」The Museum of Arts and Design (ニューヨーク、アメリカ)
- 2019 「Alumni Awards: Distinguished Midcareer」ArtCenter College of Design (パサデナ、アメリカ)

以上